第 25 回 *PRUDENTIAL SPIRIT OF COMMUNITY*

ボランティア・スピリット・アワード

活動報告書

PRUDENTIAL SPIRIT OF COMMUNITY

CONTENTS

ごあいさつ ―― P.2

第25回　PRUDENTIAL SPIRIT OF COMMUNITY ボランティア・スピリット・アワード概要 ― P.3

SOC25周年記念　これまでの歩み ―― P.4

第25回ボランティア・スピリット・アワード受賞者紹介

- 文部科学大臣賞 ―― P.6
- 米国ボランティア親善大使 ―― P.6
- SPIRIT OF COMMUNITY 奨励賞 ―― P.8
- ブロック賞 ―― P.10
- コミュニティ賞 ―― P.16

審査員からのメッセージ ―― P.30

先輩受賞者のスピーチ紹介 ―― P.32

2021 National Honorees 全米特別賞受賞者の活動 ―― P.34

第25回SOC応募状況 ―― P.36

第25回SOC応募校一覧 ―― P.37

第26回ボランティア・スピリット・アワード募集概要 ―― P.40

ごあいさつ

この度はPRUDENTIAL SPIRIT OF COMMUNITY 第25回ボランティア・スピリット・アワード（通称SOC）に全国から多くのご応募をいただき、誠にありがとうございました。皆さまのボランティア・スピリットに心から敬意を表したいと思います。

日本でSOCがスタートしたのは1997年ですが、それ以来、多くの方々のご理解とご支援をいただき、昨年25回目を迎えました。主催者を代表して、ここに改めて感謝申し上げます。

このプログラムの目的は、ボランティア活動に取り組む中学生・高校生を称えることで自分に対する自信を育むと同時に、受賞者同士が出会い、交流する場を通じて、彼らがさらに成長・発展する機会を提供することにあります。

SOCの受賞はゴールではありません。むしろ、ここからが新しいスタートです。SOCへの応募を一つのきっかけとして、ボランティアの素晴らしさを次世代に伝えるリーダーになっていただきたいと思います。

最後に、皆さまのボランティア・スピリットと行動力に、心から「ありがとう」の言葉を贈ります。いつも、ボランティアありがとう！

日本におけるプルデンシャル・グループの代表として

倉重 光雄

プルデンシャル・ホールディング・オブ・ジャパン株式会社
代表取締役会長 兼 最高経営責任者

SOCは、青少年のボランティア活動の支援を目的に、プルデンシャル・ファイナンシャルが1995年から米国において実施しているプログラムで、毎年、全米各地から3万通余りの応募が寄せられています。現在では、米国のほか、日本、インド、中国、ブラジルでも行われており、ユニークな国際的青少年支援プログラムとして各国で認められています。

SOCは、このように世界中で広がりを見せていますが、そこには一つの共通点があります。それは、どの国の若者たちも、自分たちのコミュニティをより暮らしやすい場所にするために何ができるのか、真剣に考え、実行しているということです。生まれ育った土地も環境も異なり、ボランティア活動を行う動機もさまざまな若者たちですが、彼らの行動を支えているのは、困っている人々の幸福を願う深い思いであることに変わりはありません。

各国の受賞者の皆さまの献身的な取り組み、ユニークな発想力、そして感動的な成果に敬意を払うと同時に、心からの感謝と祝辞を贈ります。また、コミュニティのために尽くしている全世界の数え切れないほどの若者たちにも、「ありがとう」の言葉を贈りたいと思います。

皆さまの活動は、人々の生活を大きく変える可能性を持っています。それゆえ、とても重要で高い価値があり、やりがいのあるものです。私は、皆さま方を誇りに思います。そして、今後も、皆さま方を称えてまいります。

チャールズ F. ラウリー

プルデンシャル・ファイナンシャル・インク
会長 兼 最高経営責任者

第25回 PRUDENTIAL SPIRIT OF COMMUNITY ボランティア・スピリット・アワード概要

PRUDENTIAL SPIRIT OF COMMUNITY ボランティア・スピリット・アワードとは?

「称える」「交流する」「発信する」という三本柱で皆さんのボランティア・スピリットを応援しています。

称える

表彰式に受賞者をご招待し、ボランティアに取り組む皆さんに「ありがとう」という言葉を贈ります。

交流する

表彰式後の交流会は“出会いの場”。多くの仲間と出会い、今後の活動に役立てることができます。

発信する

皆さんの活動内容やボランティアに関する情報を、ホームページで広く社会に発信しています。

ボランティアスピリットアワード　検索

応募資格

- ボランティア活動に取り組んでいる中学生・高校生
- 過去の応募・受賞歴に関係なく、何度でも応募可能
- 個人の活動、グループでの活動、どちらも対象

審査方法

応募内容を総合的に審査いたします。

ポイント　◆自主性　◆創造性　◆気づき・チャレンジ　◆社会貢献度・影響度　◆学び・成長　◆困難の克服　等

スケジュール

第26回応募方法は40ページをご覧ください。

こんなことでもボランティアかも?
- 地域のお祭りで歌を披露!
- 地元の子どもたちにサッカーを教えた
- 学校で栽培した野菜を高齢者施設に寄付した

活動期間　活動内容　活動のきっかけ　苦労したこと・工夫したこと　学んだこと

2021年 6月　7月　8月　10月　11月　12月　2022年 4月

- 6/1 応募開始
- ホームページより応募受付
- 8/31 応募締切
- 10月7日に受賞者発表
- 審査　ブロック賞 40名　コミュニティ賞 150名
- 11/14 受賞者活動発表会・交流会　※オンライン開催
- 12/19 全国表彰式開催　※ブロック賞受賞者をご招待　※オンライン開催
- 全米表彰式開催(オンライン)　※米国ボランティア親善大使2名に参加いただきます

各賞について

賞	中学生部門	高校生部門
ブロック賞 活動支援金5万円 表彰状、銀メダル	20名	20名
コミュニティ賞 活動支援金2万円 表彰状、銅メダル	75名	75名

ブロック賞受賞者を全国表彰式で表彰

賞	中学生部門	高校生部門
文部科学大臣賞 活動支援金10万円、表彰状、金メダル、クリスタルトロフィー	1名	1名
SPIRIT OF COMMUNITY 奨励賞 活動支援金10万円、表彰状、クリスタルトロフィー	4名	4名

賞	ブロック賞受賞者から
米国ボランティア親善大使 金メダル	2名

SOC25周年記念 これまでの歩み

「Prudential Spirit of Communityボランティア・スピリット・アワード」は、社会状況や災害等の出来事に応じて変化しながら、ボランティア活動をする中高生に「ありがとう」を伝え続け、25年目を迎えました。25年間に寄せられた累計応募数は約4万8千通、参加された中高生は約41万6千名にも上ります。これからもボランティア・スピリット・アワードは、より良い社会・地域を目指してボランティア活動をする中高生を応援していきます。

有珠山噴火
アメリカ同時多発テロ事件
宮城県北部地震、十勝沖地震
新潟県中越地震

1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回

第1回 1997

プルデンシャル・スピリット・オブ・コミュニティ全国青少年ボランティア・コンクール

・ブロック賞：各ブロックより4名、計36名を選出
・全国賞：ブロック賞受賞者より10名を選出
・9ブロック（北海道、東北、関東、北陸、中部、関西、中国、四国、九州）

第3回 1999

「プルデンシャル・スピリット・オブ・コミュニティ プルデンシャル・ボランティア賞（アワード）」へ名称変更

・米国ボランティア親善大使新設：ブロック賞受賞者より2名を選出
・SOCのホームページの開設

第7回 2003

・ジブラルタ生命が主催に加わる

第8回 2004

「スピリット・オブ・コミュニティ ボランティア・スピリット賞（アワード）」へ名称変更

・コミュニティ賞新設：全国より150名を選出

第12回 2008

・グループ応募を新設
・全国表彰式を大阪で初開催

第13回 2009

・文部科学大臣賞新設：ブロック賞受賞者より2名選出
・文部科学省が後援

東日本大震災

2030年までに達成すべき持続可能な開発目標「SDGs」が誕生

熊本豪雨を初めとして各地で豪雨災害

熊本地震

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回	第21回	第22回	第23回	第24回	第25回

第17回 2013
- 中国でSOCスタート

第19回 2015
- ブラジルでSOCスタート

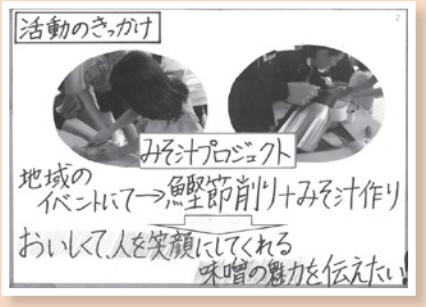
第22回 2018
- 中学生部門の新設

第14回 2010

「プルデンシャル・スピリット・オブ・コミュニティ ボランティア・スピリット賞（アワード）」へ名称変更

- プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命が主催に加わる
- インドでSOCスタート

第24回 2020
- 世界的な新型コロナウイルス感染拡大と、それに伴う初のオンライン表彰式開催
- 活動発表も同時に初オンライン開催



文部科学大臣賞 紹介 ※順不同

［文部科学大臣賞（中学生部門）］

東海・北陸ブロック　愛知県　名古屋市立新郊中学校　宮原（みやはら） りあ さん

コロナ禍で多くの人がステイホームするようになり、「動物を飼い始めたが簡単に捨てる人が後を絶たない」というニュースを目にした。自分の勝手な都合で命を簡単に捨てるなんて考えられないと思った。自分の飼っていた犬が亡くなったときにお世話になったお寺に「お供えされたペットフードのおさがりをいただき、動物愛護センターへもっていき、動物たちの命につなげたい」という企画書を提出。その内容が通り、毎月届けている。きっかけは自分の犬が亡くなったとき、母が私を動物愛護センターへ連れて行き、命の大切さを教えてくれたことだ。

［文部科学大臣賞（高校生部門）／米国ボランティア親善大使］同時受賞

首都圏ブロック　東京都　自由学園高等科・中等科　つなげる輪

生徒のプレゼンによって、主に保護者の方に寄付していただいた道具や学校の設備を利用しておにぎりを作り、池袋に運んでNPOの方の協力の下、路上生活者や生活困窮者の方に届ける活動をしている。頻度は1～2ヶ月に一回程度行っており、今年の7月で活動を始めて1年が経過した。参加者は呼びかけによって集まった生徒たち有志で、毎回15人程度で行っている。今後は路上生活者だけでなく、他のアプローチからも社会を知るということができたら良いと思っている。また他の生徒も参加できるように活動をつなげる役割も果たしていきたい。

代表:中村（なかむら） 侑人（ゆうと）さん

［米国ボランティア親善大使］

中国・四国ブロック　岡山県　岡山県立倉敷古城池高等学校　ワッショイ!とーかーず!子ども食堂　吉田 由良（よしだ ゆら）さん

自分たちの取り組みは大きく2つ。1つ目は子ども食堂のボランティアで、普段は運営の補助をしているが、年3回の高校生企画の時は、メニュー決め・買い出し・調理・お楽しみ会・勉強会等を自分たち高校生が企画運営している。2つ目はフードバンクと雑貨バンクを組み合わせたソーシャルバンクの活動。コロナ禍で困っている家庭の声を聞き、新たに物資を集積し分配する仕組みを作り、子ども食堂を通じて届けている。今後も子ども食堂のボランティア活動が継続できるように、自分たち世代の活動内容を後輩に伝えるため「活動記録ノート」を作成している。

第25回ボランティア・スピリット・アワード

SPIRIT OF COMMUNITY 奨励賞（中学生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※順不同

北関東・信越ブロック　栃木県　宇都宮市立晃陽中学校　特別支援学級

教室や建物の入り口に置く「足踏み式の消毒液スタンド」を、特別支援学級の生徒たち（令和2年度は3名、令和3年度は8名）で製作している。主に自立活動の授業（週2時間）の中で製作し、これまでに合計120台を作った。昨年10月以降製作した約80台は、約50の学校や公共施設・病院・事業所・店舗などに寄贈した。このことは地元の新聞やテレビでも紹介され、材料の提供・協力を受けながら、現在も更に製作活動を続けている。これからは使っている人の意見を聞いたり、故障があれば原因を調べたりして、更に良い物になるように工夫していきたい。

首都圏ブロック　埼玉県　さいたま市立植竹中学校　ユース・ボランティア・サービス部

2021年4月に特別支援学級の仲間たちでユース・ボランティア・サービス部を設立。先生方と相談し、活動内容を考え、SDGsの取り組みをすることにした。主な内容は「不要な紙や新聞紙を利用したサステナブルバッグの作成と地域への還元」、「地域の方々との交流」、「コンタクトレンズケースの回収の啓発活動」、「植物の栽培によるグリーンカーテン」など。また『世界の子供たちとの交流作品展』も開催した。今後の活動としては、パラリンピックの影響もあって以前より注目が集まっているボッチャを地域の方々に広め、一緒にやりたいと思っている。

関西ブロック　京都府　京都市立花背小中学校　花背を紹介!ちまきプロジェクト

花背（はなせ）地域には昔からチマキザサが自生しており、祇園祭の厄除けちまきなどに利用されてきたが、鹿の食害等で激減した。そこでチマキザサを救うことを決意し、プロジェクトチームで花背やチマキザサのことを伝えるための広報誌の作成や、和菓子のちまきの販売会開催などを、できるだけ子どもだけで行っている。学校内のチマキザサの管理や厄除けちまきづくりの伝授も行い、この活動はSNS等で広報している。今後はWEBでちまきを販売したり、全国の方に私たちのチームやチマキザサのことについて知っていただく活動をしたい。

九州ブロック　佐賀県　基山町立基山中学校　CLEANs

「CLEANING DAY 文房具おゆずり会」と称して、使わずに持っている文房具を回収し、次の必要としている方に“おゆずり”するイベントを行った。子どもが主催して活動する、子どもに寄り添ったイベントが少ないと思ったのがきっかけだ。授業などで学んだSDGsを考えると、CLEANING DAYを定期的に開催すると、物を大切にする習慣がつくと考えた。企画書やポスター制作など、活動にあたっての作業はほとんどCLEANsの2人で行い、当日の運営には特に力を入れ、お客さんの手指消毒や声掛け、文房具の消毒などの感染対策もきちんと実施して運営した。

SPIRIT OF COMMUNITY 奨励賞（高校生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※順不同

北海道・東北ブロック　秋田県　秋田県立大曲農業高等学校　Be Blue

鳥獣害への対策は、農家がもっとも深刻に抱えている課題で、丹精込めて作った果実を食害されるため収穫量に大きく影響していた。この課題を研究テーマとして取り上げて、実験場である果樹園で調査研究を実施してきた。この課題を解決するためには多額の費用がかかることが問題だったが、自分たちが開発した「湯ノ花キット」を設置するなど、廃棄される地域資源を活用することで克服し、オリジナルな地域貢献に取り組むことができた。今後はブルーベリー栽培を低コストでできるよう、新たな資材を開発したいと考えている。

東海・北陸ブロック　石川県　金沢大学附属高等学校　松尾（まつお） 理夏（りな） さん

石川県の小児患者や幼稚園児に加賀友禅の製作を体験してもらう活動を行っている。コロナ禍で辛い思いをしている子どもたちに、芸術創造に携わることで楽しさと癒しを得て、地元の「石川に暮らしていて良かった」と感じてもらうため、伝統工芸品の加賀友禅製作をゼロから企画した。また北陸最大の商業施設で、300人規模の加賀友禅疑似製作イベントを開催し、多くの人に石川の「美」を発信した。今後は全国の小児患者や幼稚園児に向けて体験イベントを拡大したり、海外の子どもたちにも石川の伝統工芸を楽しんで欲しい。

東海・北陸ブロック　愛知県　トライ式高等学院千種キャンパス　課題研究講座ボランティアコース

1人でも多くの子どもが温かい家庭で生活できるよう応援するため、里親制度について知ってもらいたいと思い活動している。里親制度に興味を持ったきっかけは、私たちの学校の先生が特別養子縁組で2人の女の子を家族に迎えたことだ。昨年は里親家庭を取材してまとめた動画を制作。動画は名古屋市の動画配信サイトで配信中だ。また女性が多く集まる美容院や飲食店を中心に、里親制度について書かれたパンフレットを配布している。今年度は新たに里親写真展を開催。里親家庭から募集した写真を展示して、里親制度をより身近に感じてもらいたいと思う。

関西ブロック　兵庫県　甲南高等学校　ボランティア委員会

オンラインでの高齢者との交流、デジタルに不慣れな方へのサポートを主な活動としている。具体的には、高齢者と高校生が一対一で40分ほど日常の出来事について会話を楽しむオンライン交流会や、オンラインで行う高齢者対象の熱中症講座やフレイル予防講座、スマートフォンを最近使い始めた方にスマホの使用方法を伝授するスマホ講座などを行い、これらの活動後、参加者に医療関係者への寄付を募った。普段交流する機会があまりない高齢者とのマンツーマンでの会話は興味深く、私たちにとってもプラスの要素がとても多いと感じている。

第25回ボランティア・スピリット・アワード

ブロック賞（中学生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※順不同

北海道・東北ブロック

宮城県　ポップカーン Jr.

グループの活動資金を得る街頭募金や、2020年「誰もやらない　子ども駄菓子屋プロジェクト」寄附行為と寄附報告会などを実施した。新型コロナウイルスの感染拡大により、昨年に続き今年も夏まつりが中止になってしまった。そこでメンバーと話し合い、「おまつりに出店ができないのなら自分たちでお店をやろう」と、店舗型の子ども駄菓子屋「ねっぱっぺ」を開店することにし、2021年寄附行為の寄附金を得る活動をしている。今後は、より多くの人に活動の意義や活動内容をチラシやSNSで発信し、知ってもらう工夫をしていきたいと思っている。

北関東・信越ブロック

茨城県　八千代町立八千代第一中学校　生徒会

自分たちの学校ではSDGsの課題に対して、自分たちができることを考えて活動を行っている。生徒会として昨年10月から、①文化祭でバルーンリリースでの緑化運動、②地域の方とのあいさつ運動、③ユニセフを通した発展途上国への募金活動を実施した。今年度目指すことは「ボランティアを校内・地域から世界へ」と、「多くのボランティア参加者を募る」ことだ。今後は自分ができる活動を応援してくれるサポーターのような存在を多くつくること、そして顔を合わせられなくても、どこかで誰かが幸せになってくれるようなボランティアを目指している。

首都圏ブロック

東京都　西東京市立田無第四中学校　ボランティア部

「医療従事者応援プロジェクト」では、近隣の小学生にも輪を広げ、多くの応援メッセージを病院へ送った。また、「外来種プロジェクト」では、アカミミガメの終生飼育を継続しているほか、実体験を踏まえた道徳教材の作成、外来種について知ってもらうための缶バッジの作成を実施。「もったいないプロジェクト」では、近隣の企業と連携してリサイクル活動を行った。これらの活動はホームページからボランティア部新聞として発信。今後はホームページやリモート活動などでさらに多くの人との関わりを広げ、医療従事者との関わりも継続していきたい。

千葉県　大網白里市立大網中学校　3年A組

動物の殺処分の現状を多くの人に知ってもらい、殺処分を減らしていく活動をしている。最初は自分の学級で殺処分に関しての道徳の授業を行い、次に他学年へも学年道徳の授業を実施。その授業の話し合いでは、中学生でも活動できるさまざまなアイデアの発言を聞くことができた。その後、全校生徒でポスターを作成し、動物愛護センターや保護動物カフェへ掲示して、より多くの人へ動物の殺処分の現状を知らせることができた。また後輩たちにも同じように授業者となって伝えて欲しいと考え、誰でも授業ができるように指導案の作成も行った。

東海・北陸ブロック

岐阜県　大垣市立東中学校　TOUCHU2021

SDGsを達成させ、安心・安全に暮らせる当たり前な世界にするためには、一人ひとりが小さな事でも取り組み、これからを生きる私たちがこの世の中を変えなければいけないと思う。全校生徒742名で、想像もつかない環境で生活し、貧困で苦しみながら亡くなる人の「命」を救うために、ペットボトルキャップを回収してワクチンを届ける活動をしている。常に少しでも世界に貢献しようと、一人ひとりが取り組んでいる。これからもさまざまな人の考えや活動を学び、それを生かして全国の若者と共に世界を変えていけるような活動を行っていきたい。

東海・北陸ブロック

岐阜県　岐阜市立精華中学校　佐藤（さとう） 奈々子（ななこ） さん

ボランティア仲間とともに、地域のごみ拾いや清掃活動などを行っている。集めたごみは分別して、アルミ缶など換金できるものは学校の倉庫で保管させてもらっている。こうした活動の様子や地域の現状を記録したり、「ごみを分別してリサイクルしたら何に生まれ変わるのか」などを調べ、それを基にポスターやパンフレットを作成。学校や地域の回覧板などに掲載させてもらい、活動を地域に発信している。今後はごみ拾いを行うだけでなく、ごみ拾いをしなくてもきれいな街にするために、地域に向けて「ポイ捨て禁止」の呼びかけを行っていきたい。

三重県　松阪市立飯高中学校

地域とのつながりを大切にしている。地域の方々は、コロナ禍でも自分たちのために出来ることをしてくれている。そこで地域の方々に全校生徒で感謝の気持ちを伝えるため、「つながるこころプロジェクト」を計画して実行した。①感謝の「エコバッグ」作成、②地域の方々とのウォーキング開催、③地域の方々と協働でのフォトコンテストの開催、④手書きのメッセージカード作成、⑤感謝の贈呈式などを実施した。今後も積極的なあいさつなど、言葉で気持ちを伝える取り組みで感謝の気持ちを伝え、たくさんの人々を笑顔にしていきたい。

関西ブロック

奈良県　今西（いまにし） 愛海（あみ） さん

子ども食堂でボランティアをしている。食堂で不足しているものを学校で集めて提供したり、子どもたちと遊びながら面倒を見て見守るという活動だ。このボランティア活動で工夫したことが2つある。1つ目は「子どもたちが何に困っていて、どうやったら笑ってくれるか」を考え、接し方を工夫した。2つ目は「文房具をより多く集めるため」にポスター制作を工夫した。その結果、先輩や後輩、そして先生方から想像以上に多くの文房具が集まった。工夫したことで子ども食堂の方たちに「ありがとう」という言葉をいただき、とても嬉しかった。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　笑顔宅急便

病気を持つ子どもたちに楽しんでもらうことを目的とした活動を行っている。コロナ禍で実際に会うことは難しいため、オンラインでの活動がメインになっている。具体的には、医師を通して脳性麻痺で在宅療養をしている子どもさんを紹介していただき、家族の方々にも参加いただいてビデオ通話を行った。歌を歌ったり絵本を読んだり、手作りミサンガをプレゼントして楽しんでもらった。活動に参加してくださった子どもさんや、そのご家族の方の笑顔を見ることができた。この活動で人と関わることの大切さ、誰かのために何かをすることの達成感を実感できた。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　紙芝居

池田市にある池田小学校に通う、海外から来た日本語教育を受けている生徒に向けて、手作りの英語の紙芝居を制作し、実際に訪問して紙芝居を読んで交流するという活動を行った。生徒はマレーシア国籍の児童7名だったため、紙芝居の内容は「浦島太郎」「桃太郎」「雪女」と、日本の文化を理解しやすく、しかもマレーシアの気候では体験できない話を選んだ。コロナウイルスが流行しているため、母国に帰ることができていない生徒が多くいるいま、日本にいる海外の人はどのような思いをしているのかが気になってこの活動を計画した。

第25回ボランティア・スピリット・アワード

ブロック賞（中学生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※順不同

関西ブロック

大阪府　堺市立金岡南中学校　理科部「防災研究班」

生徒会役員とともに豪雨などの被災地への募金活動を行ったり、理科部内の「SMILECOOKING」と共同で布マスクを作成して送ったり、ボランティアの人たちにカイロやシトラスリボンなどを送ったりする活動を行った。特にここ1～2年は感染症対策のために直接支援ができないので、自分たちの地域を支援するという視点から、「地域AEDマップ」や「AED使用方法ポスター」、「防災カレンダー」などの作成も行った。今後は学校のWebページを活用したり、校内の掲示板を使ったりして、自分たちの活動をもっと広く知ってもらえるように取り組んでいきたい。

兵庫県　養父市立養父中学校　ボランティア部

「ふれあい郵便」と「掲示物づくり」を毎月行っている。「ふれあい郵便」は一人暮らしのお年寄りに葉書を送る活動で、5月にはつまみ細工で鯉のぼりを作ったり、12月には松ぼっくりを使ったクリスマスツリーを作ったりした。学校の手伝いもボランティア部の活動の一環で、体育祭で使用するハチマキやタスキ、卒業式で使うテーブルクロスのアイロンあてや花壇の花植えなども行った。今後は老人ホームでお年寄りと一緒に作品づくりをしたり、今以上に喜んでいただける物を、より多くの方に提供し、環境に適応して活動を行っていくことを目標にしている。

中国・四国ブロック

島根県　益田市立横田中学校　生徒会

地域の企業と合同でのトイレ掃除（毎月1回）や、地域の公民館が主催する行事へ参加した。特に11月に行われた「竹灯籠祭り」では、中学生が実行委員会として企画・運営など祭り全体を統括した。年度末の3月には「お助けレンジャー」と題して、地域の一人暮らしの高齢者のお宅を訪問し、奉仕活動や交流を行った。このような活動を始めたきっかけは、自分が生まれ育ったこの地域、ふるさとが大好きだから。「このふるさとを自分の力で元気にしたい!」、「中学生が元気だったら、活気づいていくのではないか」、と考えるようになったのが始まりだ。

愛媛県　宇和島市立城東中学校　生徒会

自分たち城東中学校は、「地域に貢献する」をスローガンにボランティアを行っている。平成8年に有志の生徒と教員で花壇を作り、卒業式に正門の花壇を1，000本のチューリップで飾ったことが活動の始まり。今では「ボランティアといえば城東」と言われることを誇りに思っている。今年度は感染症対策を行いながらできることを生徒総会で話し合って活動の幅を広げた。不要になった布を使って「移動ポケット」や「ティッシュケース」を作り、学童児童や地域のお年寄りに届けている。ボランティアを通してSDGsの17の目標を5年間で達成することを目指している。

九州ブロック

宮崎県　都城市立姫城中学校　姫ボラ

姫城中学校の活動は「姫ボラ」という名称で親しまれて定着している。昨年度からはSDGsを意識した環境保全や、地域貢献型の活動に転換。校内活動においては、清掃活動やトイレの便器磨き、花壇の植え付けを実践した。校外活動では、障害者支援サークルとの交流や、保育園や養護施設へ雑巾・よだれかけを寄付したり、環境保全としてエコ風呂敷の講習会や廃油を利用したエコ石鹸作りをして寄付する活動も実施した。今後は青いマスクをつけて、医療従事者の応援やコロナ禍を乗り越えるエールを送る活動を充実させたいと思う。

第25回ボランティア・スピリット・アワード

ブロック賞（高校生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※順不同

北海道・東北ブロック

山形県　山形県立東桜学館高等学校　深瀬（ふかせ） 萌心（もゆみ） さん

自分の住んでいる地域を「中高生のボランティアが身近にある街」にしたいと、ボランティアサークル「3peace」を創設した。高校生主体のサークルで、地域の今に目を向け、①医療従事者の方に激励のメッセージを届ける、②友好都市の震災慰霊式へメッセージ入りの折鶴を用いて作成した千羽鶴を届ける、③使っていない文房具を集めて世界の子供たちへ届けるなど、自ら企画発案し、今自分たちができる事を考えて地域の人と一緒になって活動した。自分たちの良いところは、学生だからこその自由で斬新なアイデアを出すことができる点だと考えている。

北関東・信越ブロック

長野県　長野県更級農業高等学校　JRC部

「農」の活動では集落の人口減少に伴い荒廃した竹林を整備し、伐採した竹を粉状にして農地の土壌改良剤として利用した。「食」の活動ではコロナ感染拡大で使うあてがなくなった大根で切干大根を作り、子ども食堂で提供したり、台風19号豪雨災害の被災者の方たちに支援物資として届けた。「環境」の活動では河川敷のカヤを使って簾を作ってさまざまな施設に設置した。活動を始めたきっかけは、SDGsを知れば知るほど自分に何ができるのかを考えるようになり、人の指示で行動するより自分で考えて行動したいと思うようになったことだ。

茨城県　江戸川学園取手高等学校　えどとりAED同好会

江戸川学園取手小学校の子どもたちに、救命教育動画を低学年用と高学年用に分けて作成。その動画は小学生の授業に使われた。各種イベントや大会などにも積極的に出場し、AED普及活動を実施。校内でも救命講習会を開催し、救命に対する基礎知識と意識を高める活動も行っている。活動を始めたきっかけは、学校の授業で「茨城県の救命率が全国よりも低い」と聞いたことで、高校生にもできる事があるのではないかと考えたから。今後は地域のAEDマップの範囲を拡大させて、もっと多くの人にAEDの場所を把握してもらいたいと考えている。

首都圏ブロック

埼玉県　埼玉県立川口工業高等学校　掃除部

校内の掃除部に所属し、SDGsや環境問題改善に取り組む活動をしている。きっかけは昨年夏にスポGOMI甲子園全国大会に出場し、優勝することができたことだ。そこでSDGsを知り、掃除を行う部活として環境問題にも取り組むことを考えた。例えばプラスチックはリサイクルしきれず、マイクロプラスチックとして海洋生物に重大な影響を及ぼしているように、リサイクルにはまだ課題もある。そこで“大洪水は私たちのすぐそばに。”をスローガンに、ペットボトル削減やCO2排出量削減のためにウォーターサーバーを導入し、マイボトルを使う運動を行っている。

東京都　学習院女子高等科　廣瀬（ひろせ） はる さん

原発事故の被災地・福島県双葉郡の魅力や現状を、東京に伝える活動をしている。震災から10年を経た今年は、全国から1,480枚の「いま伝えたい福島」の写真とメッセージを集め、1枚の大きなフォトモザイクアートと、英語併記のフォトブックを作成した。前者は広野町の祈念式典のメインステージや首都圏で展示され、後者は海外の人たちにも閲覧していただいている。人々の福島への想いを多くの人に届けることができた。今後も「再び立ち上がりつつある被災地福島の魅力や現状」を、日本語に加え、世界に向けて英語でも発信し続けていきたい。

第25回ボランティア・スピリット・アワード

ブロック賞（高校生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※順不同

首都圏ブロック

東京都　髙橋（たかはし） 美月（みづき） さん

自身で設立し、運営しているE.D.O.は高校生環境団体として活動している。“環境問題を『ジブンゴト』に”というビジョンを掲げ、SNSを利用した情報発信やオンラインイベントの開催を行っている。学生という特色を生かし、「学校では教えてくれない環境問題」というイベントを開催し、世代を問わず環境について真剣に話し合える場所を提供している。団体が発足したのはサステナブルブランズ学生国際会議がきっかけで、イベントではコロナ禍ということもあって、オンラインで全国各地の環境に関心を持った高校生とつながることができた。

東京都　東京学芸大学附属国際中等教育学校　田淵（たぶち） 羽音（はおと） さん

ヘアドネーションを性別年齢関係なく、身近なボランティア活動にするために、自身がデザインした「ヘアドネーションマーク」と共に日々活動を行っている。「ヘアドネーションマーク」は、ヘアドネーションをしている、または応援したいと思う人につけてもらうことが可能だ。たくさんの人の目に触れる事で、ヘアドネーションの認知度を向上させて、ヘアドネーション人口を増加させることにつなげることができると考えている。今後もボランティア精神が尽きることはないが、今は「自分が高校生の間に、まだ何か見つけられるものがないか」と日々模索している。

神奈川県　自修館中等教育学校　入野（いりの） 真緒（まお） さん

オーガニックコットンが環境・社会に与える良い影響と、布製生理用品が生理の貧困においてどのような役割を果たすかを啓発することを目的に、中学一年生～高校一年生を対象に布製の生理用品を製作するワークショップを開催した。その後実際に途上国に寄付するための布製の生理用品を中学二年生～高校一年生で製作した。また、夏休み期間中に40個分の布製生理用品、80個分の製作キットを作った。今後は周りの人の力も借りながら、寄付する布製の生理用品をイベント形式でさらに多く製作し、サスティナブルな支援を拡大させたい。

関西ブロック

奈良県　奈良県立国際高等学校　GCC チームボルネオの森

授業でボルネオ島の生物多様性の消失が、私たちの暮らしと密接に関わっていることを知り、多くの人に知ってもらいたいという思いで、森の分断を体験するゲームを作成し、2年生が1年生へ授業を行った。小学生にもぜひ熱帯雨林の分断や、動物たちの現状を知ってもらいたいと思い、旭山動物園の教育担当の方と相談を重ね、ボードゲームで楽しくわかりやすく学ぶことができるように、小学生バージョンのゲームも作成した。これからは一部の人たちだけでなく、もっと誰もが使える形にして、より多くの人に学びを届けるモノとして広めていきたいと思う。

大阪府　大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程　コロナに負けるな！「啓発プロジェクト」～地域とともに～

コロナ禍において、「ものづくり」を通じて社会を元気にする「啓発プロジェクト」を立ち上げ、さまざまな「啓発キャンペーン」を企画して、「啓発グッズ」の配布活動（コロナ禍なので手渡しではなく、2度触り禁止で各人が持ち帰る）を行った。他にも、被災地の避難所にマスクの寄付や、看護師の方と相談して、医療従事者に向けて「マスクチャーム」や「蜻蛉玉ネックレス」などの啓発グッズの製作も行った。活動を始めたきっかけは、駅前で懸命に献血活動をする人や、医療従事者のがんばっている姿を見て、自分も微力ながら役に立つことができればと思ったことだ。

中国・四国ブロック

岡山県　朝日塾中等教育学校　ボランティアチーム

御津地域の伝統的な獅子舞に新たな風を吹かせようと、地域の方々にご協力いただきながら活動をしている。日本人と中国人が互いの違和感や対立を乗り越えて融和していく様を、日中の獅子舞で表現した新しい演舞を創作し、獅子舞フェスタに向けて練習。それをネット公開して普及に努めた。また並行して、専門家や地域住民からのヒアリングや現地調査に努めた。現在近隣校と協力して、動画配信サイトで「みつチャンネル」を開設・運営する方向で動いている。今後はメディアやソーシャルメディアをさらに活用した活動を展開したい。

島根県　島根県立三刀屋高等学校　JRC部

合言葉は“気づき・考え・実行する”。テーマは『命と健康』、中山間地で高齢化でもみんなが笑顔に!と願って活動している。①全員もれなく昼食を!昼食販売の実現、②被災地で泥かき、③募金、④3・3・3つながる、⑤永井博士プロジェクト、⑥停電断水サバイバル、⑦救急員等資格取得、⑧あいサポーター、⑨献血、⑩防腐防臭・土復活、⑪復興啓発、⑫千羽鶴、⑬コロナ対策web交流など、全部自分たちで気づき・考え・連絡調整・実行するので楽しんで活動している。今後もチャレンジしたいことはどんどんわいている。成功も失敗も満載!と感じている。

九州ブロック

長崎県　長崎県立諫早農業高等学校　食品科学部

長崎県のミニトマトは年間約2,000t生産されるが、規格外が約30%になることを学んだのをきっかけに、その規格外品に付加価値をつけるため新商品開発を行った。開発は数十回の試作を繰り返し、令和3年3月に商品名「Cubo　いさはやミニトマト」(ミニトマト入りショートブレッド)を商品化することに成功。さらに、ミニトマト栽培における廃棄物(脇芽)の再利用法として、抗菌シートを開発した。今後は販売会やPR活動を継続的に行ったり、地元農産物を用いた商品をシリーズ化し、地元に新しくできる道の駅の起爆剤となるように努力していきたい。

長崎県　わんにゃんおたすけ隊

野良猫のTNR活動や、子猫の保護活動を行っている。 TNRとは野良猫を捕獲機で捕獲し、動物病院で去勢避妊手術を施し、また元の場所に戻すという活動だ。住民から「野良猫が子猫を出産してしまった」などの依頼が届いたら、自分たちのできる範囲で子猫の保護をし、里親を探す活動もしている。また、子猫の親が近くにいる場合は捕獲をしてTNRを行う。現在、高校生で保護猫活動をしている別の団体と協力して、高校生向けにSNSでの動画配信などでこの活動についての説明や、不安な事などに対する質疑応答の機会を設けようと計画している。

第25回ボランティア・スピリット・アワード

コミュニティ賞（中学生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※順不同

北海道・東北ブロック

北海道　札幌市立栄南中学校　ぶら部

新型コロナに感染した人や医療従事者が受け入れられる雰囲気を作るための、シトラスリボンプロジェクトへ参加した。紐等を使って百個以上のシトラスリボンを作成し、自由に手にすることができるように校内に置いたり装飾し、来校者にもシトラスリボンの考え方が広がるようにした。他にも病院でクリスマスを過ごす子どもたちにクリスマスカードを作成する活動も行った。

青森県　五所川原市立五所川原第三中学校

「530ボランティア活動」と称して、全校生徒で地区の資源ごみを回収している。古新聞、段ボール、ペットボトル、缶などを地区の各家庭を訪問して回収し、この活動で得た収益金でボックスティッシュなどを購入。保育園、コミュニティセンター、老人施設などに寄贈している。この取り組みは、地域社会の資源を有効に活用できるとともに、笑顔を増やすのに役立っている。

宮城県　ボランティア少女隊

海岸のゴミ拾いや流木集めを行っている。流木はストーブの燃料やキャンプの薪として再利用した。父の友人や自分たちの友達に協力してもらって一緒に活動した。紙や菓子箱を分別するリサイクル活動では、父の職場や中学校にリサイクルを呼び掛けるポスターを貼ってもらって協力をお願いした。地域の人たちのためにできることはないかと考え、雪かきの活動も始めた。

首都圏ブロック

埼玉県　草加市立栄中学校　大塚（おおつか） 莉穂（りほ） さん

学校内での緑化活動として、花壇に季節の花を植えて水やりなどの管理と、採取した花の種を希望者に配り、家庭内でも緑化活動を広めてもらう活動をしている。　また赤十字協力の募金活動や、校門でのアルミ缶回収の呼びかけとあいさつ運動も実施。　地域の方にもっと私たちを知ってもらえるよう、各家庭のポストに「学校だより」をお届けするのも活動のひとつだ。

埼玉県　三郷市立彦糸中学校　地域貢献部

地域のお祭りや行事に参加し、フラダンスと和太鼓の演奏を中心に地域に活気を与え、盛り上げる活動をしている。主に自身の中学校内や学区の小学校の運動会、地域のお祭り、消防署の出初式、警察の交通安全出発式、幼稚園、老人ホームなどで演奏会を実施している。また、地域の公民館で小さな子どもたちに布絵本の読み聞かせをする取り組みも行っている。

埼玉県　三郷市立前川中学校　生徒会

「地域に貢献する前川中」として取り組んでいる。活動内容は、落ち葉掃き・資源回収・緑道の清掃活動・児童館演奏会など。また毎朝のあいさつ運動、吹奏楽部による小学校芸術鑑賞会、各種募金活動なども実施。生徒会が主導の活動以外に、数名の生徒による「前川中エコキャップ・プロジェクト」や「前川中子ども食堂支援プロジェクト」にも取り組んでいる。

東京都　世田谷区立緑丘中学校　籠屋（こもりや） はるか さん

主に学校の部活動でボランティア活動を行っていたが、今年は新型コロナウイルス対策のため、あまり校外の活動は行わず、校内を主な活動場所として活動した。夏前には草取りボランティアを、秋には落ち葉掃き、ガーデニングボランティアなどを実施した。校舎周辺のゴミを拾う美化活動も複数回行った。今後は学校外にも活動の幅を広げていきたいと考えている。

東京都　調布市立第五中学校　ボランティアダンス部

ダンスを披露することで、見る人が笑顔になってもらうことをボランティアと考え活動している。しかしコロナ禍のため活動ができなくなり、今できることは何かを考え、地域包括支援センターの力を借りて認知症サポーター養成講座を受講。認知症サポーターの証しとして配られていたオレンジリングが廃止（有料）になったことを知り、代わりとなるサポーターリングを作成した。

東京都　港区立青山中学校　図書委員会

折り紙でしおりを作って公共図書館に寄付し、大変喜ばれている。この活動は、家に余っていた折り紙を使用することで、活動費ゼロでスタートした。環境への配慮と思いやりの心でしおりを作り、みんなに使ってもらうことでページを折ったりされないよう、図書館の本を保護することを目的としている。また、折り紙という日本の伝統文化を大切にした活動でもある。

千葉県　浦安市立高洲中学校　河合（かわい） 怜吾（れいご） さん

小学1年生から野球のクラブチームに所属している。中学生からは全国優勝している硬式野球のクラブチームに所属し、兄とともにボランティアで子どもたちに野球を教えている。野球の楽しさ・素晴らしさをたくさんの子どもたちに知ってもらい、より高い技術を身に着けてもらうとともに、技術や知識を覚えるだけでなく、怪我の予防の重要性も伝えるようにしている。

神奈川県　厚木市立厚木中学校　ボランティア活動部

部員約40名で活動している。主な活動内容は花壇の整備、学校周辺の清掃活動、地域行事の手伝いの3つ。特徴的な活動は地域行事の手伝いで、今年はコロナの関係でできていないが、小学校の運動会や公民館祭り、商店会の「ホコ天祭り」などの手伝いだ。「ホコ天祭り」で配るバルーンアートを作る技術は代々先輩方から受け継ぎ、イベントで使えるようにしている。

首都圏ブロック

神奈川県　横浜市立保土ケ谷中学校　ボランティア

SDGsのポスター作成や地域の公園の清掃ボランティア、ペットボトルキャップを集めて寄付する活動を行っている。また「コロナに負けるな」という趣旨の応援ポスターを作成し、300枚以上を区役所・病院・ケアプラザ・郵便局などへ配布したり、ケアプラザへの壁面装飾や校内清掃ボランティア（草むしり、落ち葉掃き、ゴミ拾い）といった活動も、積極的に行っている。

東海・北陸ブロック

岐阜県　川辺町立川辺中学校　生徒会役員&SDGirls

アルミ缶と牛乳パックとペットボトルキャップの三つの資源を回収対象とし、これらの頭文字からAGP活動と名付けて活動している。集まった資源をお金に換えるのだが、「自分が持ってきた資源を何に使いたいか」を投票制にして、得票率に応じてお金を配分し、ほうきや学級用ボールを購入したり、社会貢献するためにユネスコへ寄付をしたりする仕組みだ。

岐阜県　岐南町立岐南中学校　生徒会ボランティアグループ

コロナ禍で地域行事が全て中止となるなか、新しいことだけに目を向けず、今まで先輩たちがずっと取り組んできた「朝のあいさつ運動」や「校内の清掃ボランティア」をしっかりと継続。また学校生活の中で一番感染リスクが高い「給食における私語なし配膳・黙食・食事後も自席で静かに過ごす」取り組みなど、仲間を一番に考えることの大切さを、この活動を通して学んでいる。

岐阜県　岐阜市立精華中学校　榊原（さかきばら） 大志（たいし） さん

長良川の堤防清掃や、地域で行われる資源ゴミ回収時に、手助けを必要としている高齢者の方のお宅へ行き、代わりに集積所へ運搬する活動を行っている。また神社の清掃、ゴミゼロ運動への参加、社会福祉協議会で募集しているさまざまな活動へも参加している。今後はアルミ缶をリサイクル業者に引き取ってもらい、資源の循環を行う計画を実行に移していきたい。

岐阜県　岐阜市立精華中学校　椎名（しいな） 優希（ゆき） さん

学校周辺や通学路の清掃活動を行い、「自分たちの街のゴミの現状」を地域に伝えるためのポスターを作成したり、特別支援学級の雑巾づくりを行っている。清掃活動を始めたきっかけは、コロナ禍による休校期間に親と近隣のゴミ拾いをするなかで、せっかく拾っても翌週にはまた多くのゴミが落ちている現状を見て、地域をきれいにするための活動したいと思ったからだ。

岐阜県　岐阜市立精華中学校　若原（わかはら） 彩乃（あやの） さん

外国人から困っていることを聞いて、一緒により良い生活を作っていくこと、また日本人にもっと外国人を身近に感じてもらうことを目指している。そこで外国人と一緒にボランティアを始めた。一緒に活動すれば、外国人の気持ちが分かると思ったからだ。例えば国際交流協会で外国人と話す場で、事前に困っていることについて取材し、その解決策を提案したりしている。

静岡県　浜松市立三方原中学校　ボランティア研究部

「自ら行動」をモットーに、地域の方々へ自分たちができることはないかと考え、全校生徒に家庭で不用となった布や端切れの回収を呼びかけた。回収した端切れから雑巾やペットボトルカバーを製作し、社会福祉協議会の協力のもと放課後児童会等へ配布した。また校内放送を利用して用務員さんや先生方から依頼を受け、美化活動や掲示物の作成など幅広く活動した。

愛知県　名古屋市立守山西中学校　ボランティア部

4つの班に分かれて火曜日と木曜日にゴミ拾いと挨拶活動を行っている。ゴミ拾いではロングとショートのコースに分かれ、ロングは学校の周りを、ショートは駅周辺のゴミを拾う。挨拶活動は校門に立ち、登校してくる生徒や地域の方々に元気な声と笑顔で挨拶をしている。また長期休みには活動範囲を広げて、普段拾えない地域のゴミを拾っている。

関西ブロック

滋賀県　大津市立葛川中学校　KCLプロジェクト／カルチャークルー

安曇川流域の魅力をPRし、廃校の危機から母校を守る活動を行っている。豊かな水と森林資源から生まれた土着の文化「シコブチ信仰」に光を当て、木材の運搬技術である筏流しを再現した。撮影した写真をもとにポスターやウェブサイトを制作し、山間地域の水文化の発信にも努めた。また筏でびわ湖を南下する旅を実現し、地域の資源と魅力、願いを街に運んだ。

奈良県　育英西中学校　飯田（いいだ） 佳蓮（かれん） さん

犬が大好きな自分は、保護犬の数がとても多いことを知り、犬や猫などのペットが捨てられない条件を作る活動をしている。ペットを飼う条件として「ペットと遊ぶ時間があるのか」、「経済的にペットを飼えるのか」などを自分たちで考案。それを冊子にまとめて、「犬や猫を飼うときの心構えやチェックリスト」としてペットショップに置いてもらう交渉をしている。

奈良県　育英西中学校　池田（いけだ） 弥生（やよい） さん

在住外国人の多くは漢字やカタカナを理解することが難しいということを文化庁のサイトで知った。これを改善し、彼らが住みやすくなればと考えて活動を開始。日本語学校に連絡をして在住外国人たちにアンケートを実施し、その結果から分かりにくいとされる漢字や標識のパターンを調べ、彼らが日常で困らないように解説や補足を加えたデータを作成した。

第25回ボランティア・スピリット・アワード

コミュニティ賞（中学生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※順不同

7 関西ブロック

奈良県　育英西中学校　上林（うえばやし） 実莉（みのり） さん

「犬の里親を探そう!」という活動を行っている。飼い主のいない犬が保護されている動物愛護センターを訪問し、そこで得た施設の情報や動物を飼う上で大切なことなどを描いたポスターを作成し、動物愛護センターに掲示してもらう活動だ。自分たちが作ったポスターを見て、犬を飼う人に自覚を持ってもらい、最後まで責任を持って飼ってもらえるようになると嬉しい。

奈良県　育英西中学校　織田（おだ） 千聖（ちさと） さん

自転車通学で登下校中の子どもは、地域の人たちなどに守られているのに、自宅での留守番中は守られていないことに疑問に感じて、留守番をする子どもを守るために「自分の身の守り方」を教えた。行政機関に調査のアポイントを取ったり、プロジェクトの中心となって活動した。今後はよりわかりやすく、簡単に子どもに伝えられるように工夫していきたい。

奈良県　育英西中学校　Thank you doctors

世界中で新型コロナウイルスが流行している中で、医療従事者が毎日朝早くから夜遅くまで感染した人たちの治療にあたっている。そこで彼らが「少しでも休憩できてリラックスできる時間を作れて、感謝される存在になってもらうため」にこの活動を考えた。文化祭で入浴剤を作り、感謝のメッセージを込めたポスターなどをプレゼントすることを計画している。

奈良県　育英西中学校　食の問題に目を向けて

食の問題への意識を変えてもらうために、学校内でポスターでの呼びかけや、実際に食材を集めて外部団体に寄付をする活動を行っている。世界で8億2千万人もの人々が食事に困っていること、そして年間13億トンもの食べ物が捨てられていることを知り、この矛盾をなくすこと、そして世界中の人々が笑顔で食事ができる世の中になることが目標だ。

奈良県　育英西中学校　知ろう!セラピードッグ

テレビで「高齢者が増えて介護施設は人手が不足」というニュースを見た。それを解決するにはどんな方法があるのかを調べたとき、セラピードッグという方法を知った。動物が好きなのでこの解決方法にひかれ、多くの人に広めたいという思いから活動に参加した。これまでインターネットや関係団体への訪問などさまざまな方法で知識を増やし、これから行動する予定だ。

奈良県　育英西中学校　富村（とみむら） 春菜（はるな） さん

小学生の子どもたちを少しでも犯罪から守るため、「自分自身の警戒心を強めよう」というテーマで活動している。学校からの帰りは地域の方の目が届いて安全だが、家で一人で留守番をしている時は守られていないと思う。この活動の必要性を調べるために警察に質問をさせていただいたり、小学生に覚えてもらうため語呂合わせを考えたりして活動している。

奈良県　育英西中学校　中村（なかむら） 天（そら） さん

コロナや不審者増加など、さまざまな理由によって減っている外遊びの楽しさを園児に知ってもらうため、幼稚園を訪問して一緒に遊ぶ活動をしている。また本当に外遊びが減っているのか、外遊びのメリットなどの調査も行った。この活動に参加したきっかけは、自分が保育園や小学生のころ、外遊びが大好きだったことと、小さい子どもたちと関わりたいと思ったからだ。

奈良県　育英西中学校　西尾（にしお） 梓（あずさ） さん

「若者の活字離れ」をテーマに、中学生に読書の良さを伝える活動を行っている。 SNSで本の紹介をしたり、小説家の方などに読書に対する思いをお聞きしたり、生徒の読書状況を調べるためにアンケートを行ったりしている。この活動に取り組むことで、少しでも多くの生徒が読書の良さを知り、自分から進んで読書をする人が増えることを目標にしている。

奈良県　育英西中学校　プラスチックごみを変身させよう

ペットボトルのラベルを本のしおりに作り変えて、多くの人たちに再利用の仕方を広める活動をしている。しおりを作るためのペットボトルのラベルを集めたり、作ったしおりを書店に置かせてもらうためのポスター制作をしている。活動のきっかけは、ニュースで「海の生き物がプラスチックごみを食べて、またその魚を私たちが食べてしまう」ということを知ったからだ。

奈良県　育英西中学校　未来につなげる　私たちの生活

コロナウイルスによる影響で売り上げが減少してしまった飲食店のために、奈良市内の住民に向けて東向商店街という地域のグルメマップを作って掲示する活動を行っている。観光客が押し寄せると密になってしまうので、地域の人々が商店街に積極的に来られるような街づくりのお手伝いをし、飲食店の売り上げを伸ばし、商店街に以前のような活気を取り戻すことが目標だ。

奈良県　育英西中学校　大和（やまと） 歩光奈（ふみな） さん

子ども食堂でボランティアをしている。ご飯を当たり前に食べることができない子どもたちのためのコミュニティーとして子ども食堂ができ、年々その数は増えている。こんなコロナ禍の時期でもたくさんの人が協力して活動をしており、集まったボランティアは子ども食堂に来た子どもと一緒に遊んだり、勉強を教えたり、さまざまな形で子どもたちのお世話をしている。

関西ブロック

奈良県　荻田（おぎた） 紗弓（さゆみ） さん

「後世に歴史をつなげよう」というテーマで活動している。京都の銀閣寺をモチーフに、まんが・からくり・クイズ・おすすめ観光スポットなどをまとめたパンフレットを作成して配布している。活動を始めたきっかけは、インターネットの情報やクラスのアンケートで、「今の学生たちは歴史に興味がある人が少なく、歴史的建造物を観光する人も少ない」という結果を知ったからだ。

奈良県　広陵町立真美ヶ丘中学校　生徒会

生徒会役員と学級委員を中心に、挨拶運動と校内清掃を中心に活動している。挨拶運動は正門と裏門で二組に分かれ、それぞれ登校する人全員に挨拶できるようにしている。清掃では全員が落ち葉などをほうきで掃き、生徒会で掘った穴に捨てて腐葉土として再利用している。生徒会やボランティア活動の存在を知ってもらい、生徒とのつながりを作るために活動している。

奈良県　堀川（ほりかわ） みのり さん

後世に『歴史をつなげていく』というテーマで、コミュニティプロジェクトという活動を行っている。多くの学生は歴史に興味を持っていないことをインターネットで知り、興味を持ってもらうことを目標に活動している。もっと歴史を楽しく学んでもらうために、歴史に関するおもしろい4コマ漫画やクイズを作成してパンフレットに取り入れるなど、工夫しながら取り組んでいる。

奈良県　藪内（やぶうち） 安和（あんな） さん

算数が嫌いな小学生が多いことを知り、小学校に入学する前の園児に「数について」や「足し算・引き算」などを、園児の好きなものを使って教える活動を行っている。後日園児から「楽しかった」と言われたり、幼稚園の先生から「今まで園児がどのくらい理解しているのか把握できていなかったのでちょうど良かった」との感想を聞き、とても有意義な活動ができたと感じている。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　愛の葉っぱ

「高齢者福祉施設のニーズと私たちができること」というテーマを掲げ、高齢者福祉施設に物資の寄付を行う活動をしている。施設には事前に電話でニーズの確認を行い、学校で回収したタオル類をハンドメイドした「手作りの雑巾」や、施設の方から依頼された「お花がみ絵」を寄付した。また施設の方々と簡単なコミュニケーションを取る活動もさせていただいた。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　1.17を忘れない会

近年、地震の記憶の風化が進み、地震のことをよく知らない子どもが増えていることが懸念されている。そこで小学生を対象に過去にあった阪神淡路大震災についての授業を行い、ろうそく作りを通して防災の意識を高める活動を行った。この活動は、ろうそく作りを通して小学校、中学校、高校の3校のつながりを深める目的もある。今後は避難訓練なども実施していきたい。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　ヴィーガンを世界へ

ヴィーガン・ベジタリアンと呼ばれる「菜食主義者」への支援を行っている。少しでもその生活を理解して世間に広めるため、大豆ミートや米粉などヴィーガンの方でも食べることができる食品を集めて、オリジナルのヴィーガンレシピを考案して作ったり、実際に動物性食品を食べない暮らしを5日間体験し、その感想や考案したレシピをパンフレットにまとめて発信している。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　介護について知り隊

高齢者の現状や介護における問題点を見つけ、若い世代の人たちに知ってもらう活動をしている。まずは「介護の現状を知り体感したい」ということで介護施設を訪問する予定だったが、コロナ禍のためオンライン会議ツールで交流。そこで感じたことをポスターにまとめて自分たちの学校で配布し、高齢者や介護について考えてもらい、理解を深めてもらうきっかけ作りを行った。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　学童を笑顔に!

池田市立小学校の中にある留守家庭児童会(学童保育)で活動を行った。新型コロナウイルスの影響により、実際に伺って小学生の皆さんと一緒に遊び、顔を合わせ交流を深める活動は難しく、感染拡大防止のためできる限り接触を減らした活動を行うことにした。そこで世界の遊びをテーマとした冊子を提供し、小学生の皆さんに楽しんでもらう機会を作る活動を行った。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　地域で始めるフェアトレード3.0

「フェアトレードについて知り、それを広める」ことを目標に掲げて活動している。まずはフェアトレードについて知るために、フェアトレードショップを訪問して店長にインタビューした。そこで知った内容をもとに、自治会館で地元の小学生や住民の方向けにフェアトレードに関するワークショップを実施した。今後は新聞に投書したりSNSを活用して、活動の場を広げていきたい。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　Teamペンギン

『農業に対する若者たちの関心を高めるとともに、地産地消に対する意識を高めて地域の活性化をはかる。』という目的のもと、援農ボランティアとして農家のお手伝いを中心に活動している。そこで体験した農作業を画像や映像で残し、若者の普及率が高いSNSに投稿。動画では農業の大変な部分を見せると同時に、楽しさもアピールできるように工夫して作っている。

第25回ボランティア・スピリット・アワード

コミュニティ賞（中学生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※順不同

関西ブロック

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　チームゆ

夏休みに保育園に行って保育士のお仕事を体験した。自分たちがプロデュースしたフィンガーペインティングを行ったが、これは子どもたちが手先を使う良い練習になり、色の違いに触れ、想像力や創造力を自然に培える体験だ。また用意したうちわに画用紙やシール、リボンを貼って、世界に一つだけのオリジナルのうちわを作って自宅に持って帰ってもらった。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　附中リベンジャーズ

「高齢者介護施設で活動をしたい」と考えていた三人で、レクリエーション活動を通して高齢者の方々を楽しませるという活動を計画。オンライン会議ツールを用いて施設の方々にクイズの出題や音楽の演奏を行った。高齢者の方にはどのような曲が人気なのかなどを考えて自分たちで選曲。最後には感謝を伝えるために色紙や折り紙などの装飾品を贈らせていただいた。

大阪府　大阪教育大学附属池田中学校　ボランティア部

食品ロスが少ないレシピを考案して、それをまとめたレシピ集を制作し、スーパーに置いてもらうという活動を行った。また小中学生にアンケートを実施し、彼らの「食品ロスの理解度や食品ロスについての疑問」を調査し、その結果を反映させた小学生向けのパンフレット、中学生向けのサイトをそれぞれ作成した。間もなくパンフレットの配布やサイトの公開を行う予定だ。

大阪府　堺市立金岡南中学校　理科部「いきものがかり」

東日本大震災の被災地である福島県や宮城県に、防火林としてクロマツやヤブツバキなどを育てて送る活動をしている。また自分たちの畑で育てた野菜で多くの人を笑顔にしたいと考え、落花生も育てている。収穫できれば地域や子ども食堂などへ送りたい。また大和川の清掃活動や生育環境の調査をして、どんな生物が住んでいるか調べる活動も行った。

大阪府　堺市立金岡南中学校　理科部「実験工作キャラバン隊」

科学実験の楽しさやおもしろさを伝える実験出前教室を行っているが、最近は新型コロナウイルスの影響で直接出向いての出前授業ができないため、実験工作授業の様子をビデオであらかじめ撮影し、リモートで小学生に見てもらう活動を行っている。また、昨年度のSOCで知り合った岡山県の高校生とリモートでつながり、逆に実験を教えてもらうという経験もした。

大阪府　堺市立金岡南中学校　理科部「SMILECOOKING」

感染症の影響で学校での調理ができないため、「防災研究班」と協働して布マスクを作り、メッセージカードを添えて豪雨災害で被害に遭われた方々に贈った。また「アルファ米」という災害時の保存食を、賞味期限の関係で日常の食卓で食べる場合のおいしいアレンジレシピを考え、自宅で家族の意見を参考に試作品を作った。

京都府　亀岡市立育親中学校　福祉部

主な活動内容はエコキャップの回収やベルマーク収集、インクカートリッジの回収、校区にある保育所や高齢者施設、支援学校へ年賀状と暑中見舞いを届ける活動などを行っている。現在はコロナ禍のため大人数での高齢者施設への訪問や支援学校との交流ができないため、季節の花をプランターに植えて高齢者施設に届ける活動などを福祉部を代表して行った。

京都府　亀岡市立亀岡中学校　学習探究部

地域の子ども食堂の企画・運営を軸に、さまざまな人とつながりながら活動の幅を広げている。「花まる子ども食堂」と呼んでいるこの食堂では、子どもたちはもちろん、有志のスタッフさんらと協力してカレー作りやお楽しみ会、絵本の読み聞かせ、大人向けのSDGsに関する研修会などを行っている。最近はお祭りや音楽イベントの運営、福祉啓発活動にも参加している。

京都府　亀岡市立東輝中学校　生徒会本部

「Day・G・Day」という朝の挨拶運動を毎週行い、募金活動やエコキャップ、ベルマーク回収を行っている。集まった募金は福島県の双葉中学校や熊本への義援金、世界中の子どもたちへの寄付、ワクチンの提供などに活用。また「5円玉キャンペーン」という世界の子どもたちを救うための募金活動も行っている。どの活動も後輩に伝えていき、活動の輪を広げていこうと思う。

京都府　南丹市立園部中学校　生徒会

“世界とつながろうキャンペーン”と題して生徒会で4つの取り組みを行った。1つ目はアルミ缶を回収・換金した後にユニセフへ送金する活動。2つ目は企業のプロジェクトに参加し、回収した衣服と日本を紹介するポスターを難民キャンプへ届ける活動。3つ目はアジアの子どもたちに絵本を届ける運動。4つ目は地元の商工会主催の“南丹サンサン祭”の運営を手伝った。

兵庫県　豊岡市立豊岡北中学校　76期生

「うみげしょお。」と題して、切浜海水浴場で海岸の清掃活動を実施した。「うみげしょお。」とは、私たちが考えた地域貢献活動のプロジェクト名で、「お菓子の『月化粧』のように、海岸をゴミ1つ落ちていないきれいな海岸にしたい」との思いが込められている。 165人で清掃活動を行った結果、海岸にびっしりとあったゴミを、砂浜が見えるようになるまで減らすことができた。

関西ブロック

兵庫県　西宮市立山口中学校　モリアオガエル保存会

モリアオガエルは兵庫県のレッドリストBランクに指定され、全国でも準絶滅危惧種に指定されている。本校では理科部を中心に50年以上前から保護増殖活動を進めていたが、理科部の廃部に伴い結成された「モリアオガエル保存会」の活動として継続されている。5月に全学年からボランティアを募集、11月の文化活動発表会での活動報告をもって解散し、翌年再結成される。

中国・四国ブロック

岡山県　新見市立哲西中学校　生徒会

学区内にある「鯉が窪湿原」には、オグラセンノウなど湿原の花が生えており、とても貴重な自然資源となっている。自分たちの中学では、毎年1年生が「鯉が窪湿原」を訪れて環境学習をするとともに、11月には湿原を守る会の方や保護者、高校生たちと一緒に、草刈りや土運びなどの湿原の保全活動を実施している。この活動は20年近く続いており伝統にもなっている。

香川県　まんのう町立満濃中学校　ボランティアチーム

地域の公民館のトイレ掃除や町役場周辺の清掃活動を行った。その他にも平日週2回程度の学校周辺の地域清掃と、休日週1回の町内各所の清掃を実施。トイレ掃除をした後は、トイレをきれいに使ってくれる人が増えたと感じている。また被災地支援として、静岡県熱海市や佐賀県武雄市に対して生徒のメッセージ入り土のう袋やひまわりの種を寄贈する活動も行った。

愛媛県　宇和島市立城南中学校　生徒会

大きく3つの活動を行った。1つ目は新型コロナ感染症に対応するための新しい生活様式の呼び掛け。2つ目は44年間続いている「はまゆう保護活動」で、はまゆうが群生している沖の島での、はまゆうの移植や海岸掃除が主な活動。3つ目は今年度の新たな試みで、3校合同ボランティアや校内のボランティア活動を盛り上げるための「朝のボランティア活動」を開始した。

愛媛県　宇和島市立城北中学校　生徒会

校内外に目を配って地域の清掃を行ったり、人手の必要な作業にボランティアを募って取り組んだり、さまざまな活動を計画して実施している。今年度の新たな取組として、7月7日に全国で一斉に行われる線香花火ナイトに、本校3年生が修学旅行先で参加した。また市内3つの中学校の有志が集まり、初めての3校合同ボランティア活動として夏休みに地域の清掃を行った。

愛媛県　東温市立重信中学校　Ｔ－ボラン

世界中の子どもたちにワクチンを届けるためのエコキャップ回収活動や、福祉施設に役立ててもらうためのアルミ缶回収運動を定期的に行っている。またさまざまな募金活動、ヘアドネーション、校内ボランティア広報誌「Tボラのつぶやき」による啓発活動なども実施。さらにコロナ禍で医療従事者等を心ない言葉から守るためのシトラスリボン運動にも力を入れている。

愛媛県　松山市立勝山中学校　生徒会

ロシア兵墓地清掃奉仕活動やユニセフなどの募金活動、ベルマーク・インクカートリッジ・ペットボトルキャップのリサイクル活動への参加を行っている。特にロシア兵墓地清掃奉仕活動は、35年以上行われている伝統ある活動で、毎月第2土曜日に100人以上の生徒が率先して活動に参加している。墓地の近くにある学校だからこそできる活動に、誇りを持って取り組んでいる。

高知県　高知市立横浜中学校　生徒会

美化活動や清掃活動を中心に活動している。「花いっぱい大作戦」は、事前に生徒が街路樹下の草を抜いたあと、地域の方と協働で花植えをしている。「地域配布プランターの花の植え替え」では、保育園や小学校、福祉施設などを訪れて植え替えをする活動。「8.8ロードボランティア」は、8月8日の早朝に地域の方と一緒に歩道に落ちているごみを拾う取り組みだ。

九州ブロック

福岡県　新宮町立新宮中学校相島分校　相島少年消防クラブ

離島である相島を火事から守る活動を行っている。週に4日の夜回り活動は、相島在住の3人で夜9時から約1時間行うもので、「火の用心!」と声をかけて居住区を巡回する。　また火災の初期消火活動のため、軽可搬ポンプの操法訓練を行ったり、火災予防ステッカーの作成と配付も実施。これらは地域の消防本部の署員の方から、年に数回の指導を受けて行っている。

福岡県　福岡市立志賀中学校　生徒会

コロナウイルスによる差別や偏見をなくしたいという想いから、新たに「シトラスリボン運動」のボランティア活動を追加した。かんきつ色のリボンや紐を3つの輪に結んで「シトラスリボン」を作って、身に着けたり掲示したりすることで「私は感染者や医療従事者への差別をしない」という意思表示をするというもの。3つの輪は「地域・家庭・職場（学校）」を意味している。

福岡県　八女市立矢部清流学園　後期課程

コロナ禍でボランティアとして参加している地域行事も実施されないなか、自分たちにできることを工夫して行った。八女市社会福祉協議会「ゆいのもり」への訪問活動では、清掃作業や介助のお世話、臨時店舗の棚卸し作業などの取り組みを行った。また矢部地区地域おこしPR活動の企画書提案報告会も開催。これからも地域のためにできることを考え行動していきたい。

第25回ボランティア・スピリット・アワード

コミュニティ賞（中学生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※順不同

九州ブロック

長崎県　長崎県立川棚特別支援学校　中学部

新聞紙や包装紙などを再利用して手作りエコバッグを作製し、地域の事業所や老人会・福祉施設・保育所・交流中学校・町役場・駅などに約400枚を配布し、地域の方に使用してもらう取り組みを行った。手作りエコバッグにはSDGsのマークを付けるなどして、地域の方々に「学校での環境学習やSDGsへの取り組み」を知ってもらえるように工夫した。

長崎県　長崎市立西泊中学校

「子供支援バッグプロジェクト」に取り組んでいる。これは車の窓ふきなどの仕事をしていて学校に行けない世界の貧しい子どもたちのために、学用品などを入れた子ども支援バッグを作って贈る活動だ。全校生徒から家の中に眠っている品物や使わない文具などをボランティアで持って来てもらい、回収した品物のひとつである布をミシンで縫って支援バッグを作った。

長崎県　長崎日本大学中学校　本村（もとむら） 日菜子（ひなこ） さん

発展途上国のワクチン接種に役に立つことと環境問題に深く関わるため、ベルマーク収集やペットボトルキャップの回収、プルタブ・アルミ缶の回収は小学校低学年からの取り組みで9年間継続している。また昨年度から、土壌の肥料として用いることを目標に、寒い時期には欠かせない使い捨てカイロのリサイクル活動を新たに始めた。

熊本県　熊本市立北部中学校　JRC部

緑化委員会が育てている花を使ってフラワーアレンジメントや切り絵を作成し、校内に彩りを添えて魅力的にする活動を行っている。老人ホームでの「窓ふき隊、おしゃべり隊」は、現在感染拡大防止で行えないため、季節ごとのメッセージカードを作成して届けている。また世界の諸問題について調べ、自分たちにできることやすべきことなどについてまとめる取り組みも行った。

熊本県　西原村立西原中学校　ボランティアクラブれんこん

常時の活動として校内や学校周辺の清掃活動を行った。また地域の高齢者の方々に励ましのはがきを書いたり、仮設住宅や福祉施設に自分たちで作った小物や花の寄せ植えを届ける取り組みも行った。災害時には生徒会と共同で支援物資の回収や募金活動を実施。コロナが落ち着けば、毎年行っている地域との交流や飲食店でのお手伝いなどの活動を再開したい。

宮崎県　国富町立八代中学校

朝のあいさつ運動、清掃などのボランティア活動、世界中の子どもたちにワクチンを贈るためのペットボトルキャップ回収活動などを行っている。また毎週水曜日にはボランティア活動、1がつく日はあいさつ運動を毎回欠かさず実施。八代中生徒は、「自主的」という言葉通りに生徒会役員が率先して実行している。今後は小・中学生合同での地域の清掃なども実施したい。

宮崎県　都城市立妻ケ丘中学校　生徒会

生徒会の目標は「進頼」。“進んで頼られる妻中生” になるためにさまざまな活動に取り組んだ。全校ではペットボトルキャップを回収し、地域の商業施設に寄付。ユニセフや歳末助け合い募金にも取り組んだ。徒歩通学の生徒は通学路のゴミを拾いながら登校する美化活動を行ったほか、3年生の有志を募り、地区の公民館の清掃にも取り組んだ。

宮崎県　宮崎市立生目台中学校

活動は、地域の高齢者に対する弁当配付、赤い羽根共同募金への協力、ペットボトルキャップでのワクチン支援活動、衣料品メーカーの「難民に服を届けるプロジェクト」への参加、地域の清掃活動など多岐にわたる。自分はこの活動を通して、地域の方々と中学生が交流できる環境ができれば良いと考えている。今後は海の清掃活動など、活動の幅を広げたい。

鹿児島県　鹿屋市立第一鹿屋中学校　第75代生徒会

生徒会を中心に学校内・外でボランティア活動を行っている。テーマは「有志によるボランティア」。例えば校区内の海岸清掃を地域の方々と一緒に実施。コロナ禍ではあったが70名を超える参加があり、地域に貢献することができた。このような取り組みは海での活動になるので、事前の打合せや参加者への注意喚起をはじめ、生徒会として十分に気を付けて実施している。

第25回ボランティア・スピリット・アワード

コミュニティ賞（高校生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※順不同

北海道・東北ブロック

青森県　青森県立五所川原農林高等学校　6次産業研究室

子どもの貧困問題解決に向けて、青森リンゴを活用したフードバンクを立ち上げた。主な活動は「栽培したリンゴ等の規格外農産物を子ども食堂運営団体に届ける」、「規格外リンゴによる加工品開発」、「加工品の売上で農家から規格外農産物を買い、子ども食堂運営団体に届ける」こと。規格外農産物は全収穫量の2割程度生まれるため、食品ロス防止にも役立っている。

秋田県　秋田県立大曲農業高等学校　野菜部

「ベジる会」の活動では、先生方の食生活改善のために自分たちで栽培した野菜と、自作した麹を材料として作った野菜料理を月2回程度提供し、食生活コーチングも行った。また「回覧板活動」では、通学路にある店舗について紹介したパンフレットを作成し、人との触れ合いが生まれるように回覧板形式で配布している。

宮城県　宮城県農業高等学校　農業経営者クラブ

大震災で最も死亡率の高かった地元の閖上地区では、毎年10月に「東北宮城復興マラソン」が開催されている。そこで全国から集まるランナーと地元復興のためにコースにコスモスを植えるコスモスプロジェクトを行っている。しかし花壇は石やゴミだらけで、とても花を植えられる状態ではないため、ゴミ拾い・雑草抜き・種まき・水やりなどの取り組みを4年間実施している。

山形県　山形県立置賜農業高等学校　置農食愛プロジェクト

4つの活動を通して食と愛のプロジェクトに取り組んでいる。①コロナ禍で困難な状況にある家族や子どもたちへの食の提供。②大人に呼びかけてフードドライブやフードパントリーへの取り組み。③子ども農園を開園して農業と食事の連動を、食農学習という形で展開する。④食育紙芝居や人形劇の創作や公演で、お互いが学び合う食育活動を積極的に進めている。

北関東・信越ブロック

群馬県　群馬県立館林高等学校　JRC部

子どもたちへの支援活動を安全に継続するため、フェイスシールドを製作して寄付した。スタッフの人数分のフェイスシールドを持参し、一人親世帯への食料配布や子ども食堂のボランティアを実施。また全校生徒に古着回収やフードドライブ、募金を呼びかけ、物品を通してコロナ禍で苦しんでいる人への支援を行った。常にできることは何かを考えて地域貢献に挑戦している。

栃木県　栃木県立小山西高等学校　JRC部

保育所と高齢者施設に模造紙大のカレンダーや小物・紙芝居を寄付したり、小学校で絵本の読み聞かせや点字教室に取組んでいる。また入院中の子供たちに小物を飾ったカレンダーを寄付したり、商店街のイベントの案内や中継スタッフを担当したり、環境美化のための地域清掃活動や、コンタクトレンズケース・使い捨てカイロなどの回収など、さまざまな活動を行っている。

栃木県　栃木県立学悠館高等学校　JRC部

東日本大震災前の2007年、「学校が避難所になったら」という一人の先輩の気づきから、防災啓発活動が始まった。主な取り組みは分散型リモート防災講座の開催や、赤十字救急法・赤十字教材を紙芝居にして上演したり、古紙を利用した蓋付き簡易小物入れの製作、手作りの応急手当ハンドブックの配布、災害時要支援者の非常食レシピの考察など多岐にわたる。

栃木県　栃木県立黒磯南高等学校　菊地（きくち） 奏太（そうた） さん

一人暮らしのお年寄りのおつかいや困りごとの解決、会話を通じて「困ったときに頼る相手がいる」という安心感をつくり出す活動を行なっている。また電子機器が好きで扱うことが得意なことを活かして、スマートフォンの使い方を教えたり、より多くのお年寄りに活動を知ってもらうためにパソコンを使ってチラシを作成するなど、地域の「IT担当大臣」としての役割を担っている。

茨城県　水城高等学校　インターアクトクラブ

ボランティア活動や地域社会・国際社会への貢献を目的として活動している。ヤングボランティア育成研修会や生涯学習ネットワークフォーラム「コロナ禍で私たちにできること」、ライラセミナー 「令和をどう生きるか」を開催したり、学生服未来応援ファンド、フードバンク茨城食品仕分けボランティア、校内整備ボランティア、リボーン・アートボールなどさまざまな活動を行った。

茨城県　茗溪学園中学校高等学校　堀之口（ほりのくち） 詩（うた） さん

金銭的な理由で塾に行けない小中高生を対象に、学習支援を行うNPO団体に所属している。ここは勉強を行う場所だけでなく、居場所としての役割も果たしていて、人間関係を学ぶ場としても機能している。毎回生徒の帰宅後にコーチが集まって全体の様子を振り返ったり、一つのテーマに対して議論したりするため、その日の生徒の様子や考えを全員が共有している。

茨城県　茗溪学園中学校高等学校　熱海募金実行メンバー

熱海市の土石流災害をニュースで知り、熱海市の公式ウェブサイトの発表によれば現物ではない形での支援が推奨されていたことから、実行メンバーで話し合った結果、募金活動がもっとも効果的という結論に至った。当校生徒有志によって企画・実施された、開校以来初の大規模な募金活動となった。回収した募金は公の機関に送金し、支援物資購入のために使われている。

第25回ボランティア・スピリット・アワード

コミュニティ賞（高校生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※順不同

北関東・信越ブロック

茨城県　茗溪学園中学校高等学校　茗溪学園なかよしマスクプロジェクト

“Tsukuba Mask Making Volunteers”が主催する活動に参加し、生徒約50人でマスクを製作した。皆で協力して生地を切り、縫い、ゴム紐を付ける作業を行い、合計680枚のマスクを10日間かけて製作。さらにこの活動を通して教員と日本中の友人から布マスクの寄付を受け、それらを合わせてアフリカ人の健康維持のため、マスクを容易に入手できないアフリカ地域に寄付した。

首都圏ブロック

埼玉県　埼玉県立桶川西高等学校　科学部

40数本の水槽で700匹以上の水生生物を飼育・展示し、『ハートフル桶西水族館』として運営している。『綺麗な水槽で健康な魚を見せる』という活動方針のもと、日々水槽管理を行うほか、折り紙や科学工作、すごろくなどを用意し、手作りのプラネタリウムも設置している。各種地域イベントにも参加し、出前水族館や地元の偉人を紹介する自作の紙芝居も披露している。

東京都　東京学芸大学附属国際中等教育学校　トク☆クラ

地域の小学生が持つ「授業で発言することに対する苦手意識」をなくすために、「+E教育」という既存の教育法と、心理学的アプローチを統合させた教育法をもとに、自分たちが考案した長期プログラムを開催する取り組みを行っている。「話す」ことに対しての心配をなくし、コミュニケーションをとることが楽しくなるようなワークショップを自ら計画して実施をしている。

東京都　東京学芸大学附属国際中等教育学校　Bridge

主に人と人の繋がりをメインとした社会貢献活動を行っている。例えば農業を営む人たちの姿を動画にして発表をすることで、「農業を知って欲しい人と、興味がある人との架け橋になる」といった活動だ。農業についての知識をクイズ形式でオンライン上で紹介したり、野菜を使ったヘルシーレシピの紹介など、見た人が身近な話題で農業に興味を持てるように心掛けている。

東京都　東京都立葛飾ろう学校　かつろうキッチン

自分が通っているろう学校には、全国で唯一「聴覚障害の生徒が調理師資格を取れるコース」があり、将来は調理師を目指している。この学校で自分たちは『かつろうキッチン』というレストランを運営している。4年前から続く活動で、調理を通じて地域と連携した特産品のPR活動と、こども食堂の支援、さらには聴覚障害者への理解啓発活動に取り組んできた。

千葉県　千葉県立四街道高等学校　米澤（よねざわ） 優人（ゆうと） さん

主な活動の場は地域の医療機関、特別支援学校、老人介護施設などで、 13名で活動している。自分たちは「心の通い合うボランティア」というテーマを大切にしており、これは「訪問先の皆さまからリクエストをいただき、それにお応えするボランティア」のことだ。またコロナ禍で直接会うことができなくても行えるボランティアを、「非接触型ボランティア」と名付けて活動している。

千葉県　麗澤中学・高等学校　SDGs研究会「EARTH」

自分たちの活動は主に3つ。 1つ目はフェアトレードコーヒーの活動で、生徒がオンラインショップを開設して、コーヒーや生徒デザインのドリップバッグを販売している。 2つ目は小児がん患者支援のためのレモネードスタンドの募金活動。 3つ目はパーム油の産業を問題視し、廃油を利用したアップサイクル型ハンドソープとアロマキャンドルを作成するという取り組みだ。

神奈川県　相澤（あいざわ） 怜奈（れいな） さん

昨年の夏から、 NPO法人「若者国際支援協会」にボランティアとして参加している。この団体では、外国人向けの日本語授業や、英語を楽しく身に付けられるイベント、また絵を描くことを通して国際交流が出来るイベントなどをオンラインで開催している。そこで自分は学生代表を務めており、各イベントをまとめたり、アドバイスを提言したり、全体の広報などに取り組んでいる。

神奈川県　カリタス女子中学高等学校　アンジェラスの会海外支援グループ

自分たちが里親支援をしているインドやバングラデシュの子どもたちの勉強の手助けで、副教材として使うドリルの制作を始めた。現地のバングラ語で作るので科目は算数に限定し、問題の内容が分かりやすいように図を入れるなど工夫している。四則計算、分数・小数、図形、その他の4つのグループに分かれ、学年別に使えるように3つのレベルのものを制作している。

神奈川県　カリタス女子中学高等学校　Petit pas de Caritas

東日本大震災の風評被害に苦しむ福島県の農家支援のために設立されたグループで、名称のフランス語が意味する「小さな一歩」をモットーに活動している。具体的には近隣のお店や福祉施設と共同開発した、福島県の農作物を使った商品を校内で販売。またコロナ禍でもできる新しい試みとして、岩手県大船渡の方と連絡を取り、コラボ商品を生み出す計画もしている。

神奈川県　サレジオ学院高等学校　MACOSYプロジェクト

MACOSY（Malawi Coffee with Salesian Youth）プロジェクトという取り組みを行っている。これはサレジオ学院カトリック研究会の生徒が、 NPO法人Warm Hearts Coffee Clubと連携して実施している「マラウイ産フェアトレードコーヒーの学内販売」活動だ。チャリティの側面もあり、NPO法人せいぼの協力のもと、売り上げの100%がマラウイの子供たちの給食支援に充てられている。

首都圏ブロック

神奈川県　自修館中等教育学校　加藤（かとう） 陽菜（ひな）さん

主な活動は3つ。1つ目は「オンラインイベント開催」で、自分の学校と地域の小学校とをwebでつなぎ、探究発表用のチャンネルを設けて小学生が自由に入室できるイベントを開催した。2つ目は医療従事者への寄付をするためのステッカー販売。3つ目の「SDGs人生ゲーム」は、小学生でも遊べるような人生ゲームの作成で、現在商品化に向けて企業と相談している。

神奈川県　自修館中等教育学校　金丸（かなまる） 泰山（たいざん） さん

SDGs認定エデュケーターとして、SDGs啓発活動を行っている。内容はSDGsに関連した新聞記事に、SDGsのゴールを結び付けていくワークショップを行うことと、イベント会場でプラスチック問題を実感するアクティビティを提供することだ。また、地元商店街のSDGs化も自分が中心となって取り組んでいる。この活動を通して、生活レベルでSDGsを広めていきたいと考えている。

神奈川県　日本女子大学附属高等学校　人形劇団ペロッコ

老人ホームや障がい者施設、保育園などで人形劇の公演を行っている。公演ではお客さんと一緒に歌ったり、手遊びやダンスをしたりする交流の時間も設けている。コロナ禍に入ってからはボランティア内容の研鑽に重きをおき、web上で人形劇の鑑賞をしてビデオ会議で意見交換会をしたり、表現力を豊かにするために手話に触れるなどして、技術面の向上に努めている。

山梨県　山梨学院高等学校　芦沢（あしざわ） 心（まなと） さん

地域の中高生で協力して、果樹園のお手伝いや周辺掃除に取り組んでいる。活動のなかで、さまざまなフルーツの木から出る不要な枝や葉をもらい、それを使った「園児アート」の製作を近くの保育園に依頼。できた作品は山梨県の観光スポットに展示させてもらった。今回の活動のスローガンである、「山梨の僕らに出来ること」をテーマにがんばって取り組んだ。

東海・北陸ブロック

福井県　福井県立大野高等学校　ボランティアチーム「結」

全国高校総体の開催地として、来県者へのおもてなし活動を実施した。全国の選手団に自分たちの地域を知ってもらい、来県を楽しんでもらえるよう案内を充実し、町をあげて取り組んだ。他にも不要になった古着をパキスタンへ送る活動や、エコキャップ回収運動、「令和3年7月大雨災害義援金運動」として、校内で義援金を呼びかけて被災地へ送る活動も行った。

岐阜県　岐阜県立大垣養老高等学校　犬クラブ

部活動の一環として、犬の命の救援活動に取り組んでいる。保護された犬を預かり、一般家庭で幸せに生活できるように、しつけ訓練や健康管理などを行う取り組みだ。並行して里親探しと、里親希望者へのしつけ教室の実施、アフターケアなどにも取り組んでいる。2020年12月から活動をスタートし、現在までに5頭の保護犬譲渡の実績がある。

愛知県　桜花学園高等学校　インターアクトクラブ

保育園や福祉施設を訪問し、「しあわせ届け隊」として交流をしたり、ミュージックベル・手遊び・ダンスなど、さまざまなパフォーマンスを披露している。また地域での活動にも注力し、公園の花植えプロジェクトでは地域の方々と交流をしながら公園の景観づくりに貢献。公園の魅力を発信するためにガイドツアーを行ったり、現在はマップ作りも進めている。

愛知県　菊華高等学校　Lion's café

高齢者向けの健康サロンでの活動、地域の子ども食堂でレクリエーションを披露してコミュニケーションを行う取り組み、学校近くにある緑地の清掃活動、SDGsの企画など活動は多岐にわたる。これらの活動により、「輝け未来の専門職-未来へのビジネスデザインコンテスト-」に参加し、準グランプリを獲得するなどプレゼンテーションにも力を入れている。

愛知県　中部大学春日丘高等学校　インターアクトクラブ

「目の前の人を笑顔に!」を理念に、東海地区最多の年間300回以上の活動を行っている。普段の活動としては、放課後デイサービスや障害者施設に伺ってのボランティアが中心で、地域のイベントの運営や出品なども実施。現在、教育格差を少しでも解消できればと、小中学生を対象に勉強の補助を行う「つばめ学習会」という無料塾に取り組んでいる。

愛知県　名古屋大学教育学部附属高等学校　どえりゃあWings

企業と共同開発したフェアトレード商品を街中で販売する活動や、NPO法人と協力してベトナムの子どもたちへの教育支援とそのための募金活動、日本の良さを動画配信サイトにて多言語で発信する企画、講師の方を全国各地からお呼びして、オンライン会議ツールでSDGsに関して学ぶ「SDGs勉強会」など、高校生では普段体験出来ないような、国際協力を行っている。

三重県　英心高等学校　ボランティアサークル

毎週金曜日に清掃を中心とした活動を行い、土日には小中学生の子どもたちとスポーツを中心としたふれあい活動をしている。現在は、秋に三重県で行われる「とこわか国体」へ向けて、日々社会貢献活動に取り組んでいる。このような活動をすることが好きな理由は、「自分の行っていることによって誰かが笑顔になっている」と実感できることだ。

第25回ボランティア・スピリット・アワード

コミュニティ賞（高校生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※順不同

関西ブロック

滋賀県　滋賀県立国際情報高等学校　高校生ボランティア団体にゃんこおたすけ隊

主にTNR活動をしており、怪我をしていたり虐待を受ける危険性がある猫を保護し、里親を探す活動にも取り組んでいる。また多頭飼育崩壊からのレスキューなども行っており、現在までに約100匹の猫を手術し、40匹ほどを譲渡してきた。「学生だからできること、学生にしかできないことを全力で」をモットーに、猫の命のバトンを繋ぐ団体として活動を続けている。

滋賀県　滋賀県立八日市南高等学校　地域支援活動部

震災を風化させないための「復興支援2畳凧」や「いいたて雪っ娘かぼちゃ栽培」の活動、子どもたちの貧困対策として無農薬野菜の栽培と子ども食堂への支援、知的障害者施設での野菜苗の定植活動、熱海土石流災害や子どもたちの貧困対策への募金活動などを実施している。東北ボランティア活動で学んだ「命の大切さ」を地域社会に還元する活動を目指している。

和歌山県　和歌山県立熊野高等学校　Kumanoサポーターズリーダー部

「AEDシート製作班」は、AEDシートの大量生産と取扱説明書の開発、町内71カ所への配布を行い、設置施設の情報をオープンデータ化するため、営業時間や設置場所などの聞き取り調査も同時に行った。「動画班」はコロナで通常の活動ができないため、地元警察と連携して「免許返納啓発」、「振り込め詐欺撲滅啓発」、「警察官の仕事って?」の3つの動画作成を行っている。

大阪府　大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校　川瀬（かわせ） 愛莉（あいり） さん

コンプレックスのある子のために、コンプレックスをカバーする化粧（自分はこれを「みだしなみ」とする）を、学校の校則で認めてもらうために生徒会長になった。そして校則改革に取り組んだが、化粧と「みだしなみ」の区別が難しく実現できなかった。そこで化粧ではない「みだしなみ」を実現できる商品を自ら企画し、ファッション関連の企業に売り込み、開発をお願いした。

大阪府　大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校　三田（みた） 夏愛（なつめ） さん

マラソン大会中、言語で困っている外国人選手に英語で話しかける語学ボランティアに取り組んでいる。現在、コロナ禍でも実施できるように、ICT機器を利用したテレビ電話での通訳、マラソン選手との会話で頻繁に出てくる言葉のユニバーサルデザイン画をタブレットに映し、画面だけでの会話などを研究している。上手く通訳できるように、仲間と英会話の学習も行っている。

大阪府　大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程　スクール油田プロジェクト～捨てればゴミ、活かせば資源・バックトゥザフューチャー～

天ぷら油や不要な油で電気が作れる、バイオディーゼル発電機を製作した。またプラスチックゴミを入れると油ができる「プラスチックゴミ油化装置」の製作・改良も行った。プラスチックゴミを油化装置で油にして、その油をバイオディーゼル発電機に入れると電気ができる。すなわち、不要なプラスチックゴミから電気ができ、自動車も走らせることができるという活動だ。

大阪府　大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程　地域連携による「被災地支援プロジェクト」

「堺学」という授業で包丁と線香を作っている。東日本大震災で「包丁が流されて困っている」という話を聞いて以来、鎮魂の願いを込めて包丁と線香を寄贈し続けている。また宮城県と岩手県を訪問して、今までに寄贈した包丁と津波被害で錆びた包丁の研ぎ直しを行い、たくさんの「ありがとう」に出会えた。被災地高校生との「コラボ線香」の製作にも取り組んだ。

大阪府　大阪府立農芸高等学校　ワタプロジェクト

江戸時代、河内地域で盛んに行われていた河内木綿の栽培が、時代が流れるにつれ減少。その河内木綿を復活させようと、NPO法人河内木綿藍染め保存会が活動しているのを知り、八尾市久宝寺地区と堺市美原区にある農芸高校を中心に自分たちも活動を始めた。地域の伝統を大切に守っていこうとする団体の思いを感じ、さまざまな形での貢献に取り組んでいる。

大阪府　大阪府立枚岡樟風高校　地域貢献部

地域を元気にする活動を行っている。　「ヒーローショー」では、オリジナルヒーロー『瓢箪山戦隊ショウフウジャー』として、保育園や福祉施設でショーを行っている。また地域河川で水生生物を保護し、地域の人たちに河川美化の啓発活動をしたり、商店街の空き店舗で水生生物の展示や地域に関係する商品を販売し、売り上げを寄付する活動も行っている。

京都府　京都府立綾部高等学校　分析化学部

校舎沿いを流れる由良川の清掃活動を定期的に行うと共に、ゴミの分析・記録を行っている。また、市民の協力を得て行う「由良川クリーン作戦」を実施。この活動を通して産学官民の絆ができ、交流の場にもなっている。小学校や保育園に出向いて環境出前授業も実施。コロナ禍で活動の制限は多いが、できる事を考えて少しでも由良川の保全になればと取り組んでいる。

京都府　京都府立京都八幡高等学校　南キャンパス　ボランティア部

コロナ禍でも、フードバンクこども支援プロジェクト・放課後等デイサービス事業・手作り防護服作製など、自分たちにできることを続けている。また、地域の福祉委員の方とリモートで交流を行い、地域の方と協力して「めばえの談活」（地域の方に福祉への関心を持ってもらうためのアイデアを、高校生という立場で出し合う場）にも力を入れている。

関西ブロック

京都府　立命館宇治高校　溝上 藍（みぞかみ あい）さん

“Love through Graciousness”という団体を立ち上げ、インドネシアなどの発展途上国に住むストリートチルドレンに、オンラインで日本の文化を教える活動をしている。ウェブサイトとSNSで協力してくれる現地の団体を探し、子どもたちの興味などのリクエストに応じて、楽しく身近に日本文化に触れられる機会を作っている。今後はもっと多くの子どもたちに日本文化を届けたい。

兵庫県　甲南高等学校　堀木田 結柊（ほりきた ゆいと）さん

校内や地域の小学生・高齢者を対象に、シトラスリボンプロジェクト普及啓発活動を実施している。活動に賛同いただいた方からの募金を、医療従事者に寄付する活動も実施。コロナ禍における差別、偏見をなくすための活動で、感染者や医療従事者への偏見を持たない暮らしやすい地域を目指す。現在、留学中の生徒によりイギリスやカナダにも活動の場を広げている。

兵庫県　兵庫県立東播工業高等学校　空飛ぶ車いすサークル

福祉施設や市役所、個人などから、使えなくなった車いすを提供していただき、修理・再生し国内外へ寄贈している。具体的な作業は、車いすの点検、洗浄、錆落とし、部品の交換、グリスアップ、タイヤ交換、塗装、車検、本校のシールの貼り付けなど。これまでにタイに25台、インドネシアに15台を寄贈した。英語と日本語の手紙と作業風景の写真を添えて送っている。

兵庫県　兵庫県立社高等学校　生活科学科

「食」を通した地域活性化を目的とした、地方創生班というグループで活動している。地域の食材を生かしたレシピ集の作成・配布をしたり、市役所や企業、農家の協力を得て、特産品のPRにつながる商品開発を実施。また旅行会社と連携した北播磨地域の魅力を発信するバスツアーも展開。今後はコロナ禍でも自宅で楽しめるリモートツアーの動画製作・配信を予定している。

中国・四国ブロック

岡山県　朝日塾中等教育学校　演劇部

コロナ感染対策を啓発する絵本、「コロナのコロ蔵のおはなし」を作成し、自分たちの声と効果音を挿入した日本語・中国語版動画を動画配信サイトや中国のサイトにアップして、国内外へ対策の徹底を訴えた。絵本では手洗いやマスクをしない人が「コロ蔵」に狙われることや、ワクチン接種が有効なことを紹介。収束のためには国を越えての協力が必要なことをアピールした。

岡山県　岡山県立倉敷天城高等学校　倉敷天城モデルロケット&プラズマ研究チーム

「プラスチックストローって本当に悪者なの?」をテーマに、小中学生を対象にした実験教室を開催したり、教材づくりをしている。8月には、教材の主となるプラスチックストローを固体燃料に用いた、ハイブリッドロケットの打ち上げに世界で初めて成功し、6時間程度の授業案ができた。現在は動画教材を作ることを中心に活動しており、児童・生徒たちに紹介したいと考えている。

岡山県　岡山県立矢掛高等学校　三宅 茉莉（みやけ まつり）さん

「日本資本主義の父」と呼ばれ、新一万円札の肖像に選ばれた渋沢栄一。ドラマでも波瀾万丈な人生が放送されている。その渋沢栄一の人生の転機に関わったのが地元である井原市だ。そこでこの地を盛り上げる活動がしたいと考え、ゆかりの地を巡り、人々とふれあいながらパンフレットを作成。地域の方々に活用してもらい、地元が盛り上がるよう願っている。

岡山県　金光学園中学・高等学校　田中 希莉子（たなか きりこ）さん

新型コロナウイルス感染症の影響でアルバイトがなくなり、生活に困っている岡山大学留学生の国際交流サークルのメンバーに、野菜やレトルト食品、缶詰などの食料支援をしている。初めは私が通う高校の授業に来ている留学生の先生2人のために個人で行っていたが、より多くの留学生を支援するために、校内の国際交流クラブのメンバーに呼びかけて取り組んでいる。

岡山県　山陽学園高等学校　地歴部

瀬戸内海の海洋ごみ問題のうち、海底ごみと島嶼部の海岸漂着ごみの回収活動と啓発活動に取り組んでいる。従来の啓発活動で「申込制だと意識の高い人が参加する」、「問題の他人事化」などを感じた。そこでこの問題を「自分事」として捉えてもらい、意識と行動の変化を促せるよう、日常生活と地域から「人と海洋ごみ問題の距離を縮める」啓発活動に挑戦している。

岡山県　白石踊800年の伝統を受け継ぐ会

自分たちが継承活動している白石踊は、800年以上にわたり白石島に伝えられてきた盆踊りだ。現在島内には私を含めて高校生4人、中学生は1人だけで、後継者不足による存続の危機に直面。そこで若者に白石踊を広めようと練習会への参加や、広報やコンテスト・シンポジウムを通じて認知度向上に努めている。現在は9高校と2中学校の合計24人で活動している。

島根県　出雲西高等学校　インターアクトクラブ

継続的に環境保全活動を行っている。海岸清掃を年間5回、43年間続けている。また海岸には韓国のゴミが多いことから、韓国の高校生と10年間交流し、ゴミの問題を訴えている。海岸清掃を行うと川が汚れていることに気づき、海と川の原点が森ということを知った。そこで森の再生を試み、NPO法人と共に災害を出さない森作りを目指し、植林や伐採にも取り組んでいる。

第25回ボランティア・スピリット・アワード

コミュニティ賞（高校生部門）紹介

※ボランティアグループ名などは、応募用紙の記載通りとさせていただいております。
※順不同

中国・四国ブロック

広島県　崇徳高等学校　インターアクトクラブ

主な活動の献血推進活動では、月に2～4回、街頭で献血の呼びかけを行ってきた。学校に献血バスを呼び、約80名から90名の人に400mlの献血をしてもらった。さらに、コロナの影響で障がい者福祉施設のイベントが中止となり、作業所で作られるクッキーが販売できなくて困っていることを知り、全校生徒に呼び掛けて学校内で約1,000食のクッキーを委託販売した。

山口県　山口県立柳井商工高等学校　まちづくりプロジェクトチーム

山口県の伝統工芸「柳井縞」を生かして地域活性化に取り組んでいる。目的は柳井縞の伝統継承と普及活動だ。東京2020大会に出場する山口県にゆかりのある選手の応援をするため、「2020人柳井縞機織りチャレンジ」を行った。コロナ禍で厳しい状況だったが、小学校の協力もあり2,020人を達成。その織物で小学生と18個のスポーツバッグを製作して選手にプレゼントした。

香川県　香川県立三本松高等学校　三高みんなの食堂プロジェクト

三本松高校と農業法人が中心となり、地域の方々や大学生にも支援をいただいて、新しい形の学食を作るプロジェクトに取り組んでいる。全生徒が参加している中で、自主的にプロジェクトリーダーとなった54人が中心となってボランティア活動を実行。主に広報やメニュー開発、畑作業や内装作業、総務などのチームに分かれ積極的に活動している。

徳島県　徳島県立阿南光高等学校　緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム

東日本大震災の復興防災減災活動に取り組んでいる。チーム内では3人の高校生防災士が活動しているが、新型コロナの感染拡大を受け地域での活動が制限され、活動する機会も少なくなってしまった。そこで7人の有志で「阿南光高校防災士の会」を設立し、東日本大震災の復興防災に携わった高校生だからこそできる地域防災活動の企画立案に取り組んでいる。

徳島県　徳島市立高等学校　家庭クラブ

地域創生活動を中心に幅広く活動している。藍を食べる「藍食」の普及に取り組み、藍ドレッシングの商品化や藍パウダーを使用したクッキーやカステラなど、生徒が作った焼き菓子を産直市「とくしまマルシェ」で販売し、地元の新聞にも掲載された。また現在は、ゴミゼロウェイスト宣言で有名な上勝町の、世界でも珍しい後発酵茶「上勝晩茶」普及のための準備を進めている。

高知県　高知県立幡多農業高等学校　はたのうシトラスリボンプロジェクト

コロナの差別防止のためのシトラスリボンプロジェクトに賛同し、メンバーでシトラスリボンを製作・普及する活動を行っている。生徒や保護者に広める活動の他、地域でコロナ対策に尽力してくださっている検査受託医療機関、保健所、四万十市健康増進課などにも寄贈し、感謝の想いとエールを伝える活動や、地域の小中学校などへの普及活動も行っている。

高知県　高知大学教育学部附属特別支援学校　生徒会

不要になった文房具を回収して発展途上国に送る活動を行っている。不要なモノをリサイクルしたり人に譲ることで、ゴミが減ってモノが再び生かされる。発展途上国では戦争や災害などで文房具すら無くて困っている子どもたちがいる。家庭内の不要になった文房具を集め、その子どもたちに届けることでリサイクルができ、遠い国の誰かに喜んでもらうことができる活動だ。

九州ブロック

福岡県　いいづか人材育成グループ『ユリシス』

「地域貢献」「異世代間交流」「国際交流」をテーマに活動している。活動で出会う方々との交流を通じて、「自ら学び、感じ、成長していくこと」をモットーに、来日間もない外国人の支援と異文化間交流を目的に日本語教室の支援を実施。また異世代間交流を目的とした各種事業への協力や、成人式の運営支援、民間財団等の助成事業を活用した事業実施なども行っている。

長崎県　長崎県立諫早農業高等学校　生物工学部

地域の問題である放置竹林についての取り組みを行った。竹を農業資材として活用することを目指して実験した結果、竹に含まれる成長阻害物質が水溶性であることを実証。さらに実験を進めることで、その成分には雑草の抑制効果があることや病害抑制効果も発見できた。放置竹林の有効活用法について、研修会の実施やマスメディアによる技術の普及を行っている。

長崎県　長崎県立対馬高等学校　ユネスコスクール部

国内希少野生動植物種に指定された「ツシマウラボシシジミ」というチョウの保護に取り組んでいる。またチョウの幼虫のエサとなる「ヌスビトハギ」を種から育て、8月には今年新しくできた対馬市峰町の保護区へ植栽することができた。また野生では絶滅してしまったといわれている「オウゴンオニユリ」の栽培や、「海ゴミ問題」の解決に向けての取り組みも行っている。

熊本県　熊本学園大学付属高等学校　式森（しきもり） 千華（ちか） さん

3つの活動に参加している。1つ目は熊本地震で影響を受けた方が暮らしている仮設住宅でのボランティアで、住民間の関係を良くするために活動している。2つ目は国立阿蘇青少年交流の家での活動で、子どもたちのサポートや事業で使う道具などの準備を行っている。3つ目は新型コロナウイルスで一時期品薄となったマスク製作のボランティア活動だ。

九州ブロック

熊本県　熊本県立菊池農業高等学校　農業研究班

持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて「菊農SDGs宣言」を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいる。地域課題の一つである「竹林問題」の解決をテーマに、地元の菊池神社の神苑の放置竹林伐採ボランティアや、竹を砕いた「竹チップ」の肥料開発で持続可能な農業を実践したり、「竹クッキー」の試作を行って子ども食堂の子どもたちと交流した。

熊本県　熊本県立南稜高等学校　犬童（いんどう） 一斗（かずと） さん

自分が企画した活動としては、家庭の生ゴミ減量のための「段ボールコンポスト」製作に取り組んだ。他の部員が企画した活動への参加は、球磨村神瀬地区での災害ボランティア活動や、ベルマーク収集活動のなかでの収集箱の設置、エコキャップの収集活動における分別、牛乳パックの収集活動ではパックの切り開きなどの協力を行った。

熊本県　熊本県立南稜高等学校　工藤（くどう） 愛生（まなみ） さん

「令和2年7月豪雨」で被災した西瀬小学校の子どもたちの憩いの場である、「ASOBIBA活動」への参加呼び掛け活動に取り組んだ。参加を呼び掛けるチラシの作成などを行っている。また、他の部員が企画した活動への協力活動として、くま川鉄道あさぎり駅の清掃、くま川鉄道復旧募金の集計、ベルマークの仕分けと集計などを行った。

熊本県　熊本県立南稜高等学校　ボランティア部 チームI

「令和2年7月豪雨」での災害ボランティア活動や、くま川鉄道復旧のための募金や駅舎の清掃、ベルマーク収集や「ASOBIBA活動」への参加呼び掛けなどに取り組んだ。また、学校周辺のゴミ拾いや生徒昇降口前の花壇の花苗植え、保育園での手伝いや救急法講習会の開催、書き損じ葉書や使い捨てコンタクトレンズケースの収集などにも積極的に取り組んだ。

熊本県　熊本県立南稜高等学校　宮﨑（みやざき） 華恋（かれん） さん

校内での手話講習会を企画して、活動計画案と参加呼び掛けチラシを作成している。自身でも毎週火曜日の夜に開催されている「手話サークルわかぎ人吉」にも参加して、手話の勉強に取り組んでいる。また他の部員が企画した活動への参加として、災害ボランティア活動に毎月参加したり、エコキャップの重さを測ったり、ベルマークの仕分けと集計をしたりしている。

熊本県　熊本県立南稜高等学校　吉田（よしだ） 美咲（みさき） さん

「令和2年7月豪雨」で被災した地域の方々に、少しでも元気になっていただきたいと思い、絵を描いて被災地に贈る取り組みを行っている。また、被災ボランティアとして被災した家屋の片付けや手伝い、掃除、お菓子配りなどを行った。生徒昇降口前の花壇の花苗植えや、エコキャップ収集時の収集箱の回収や重さの測定、ベルマーク収集時の仕分けと集計も行った。

熊本県　古賀（こが） 渓太郎（けいたろう） さん

2020年7月の豪雨災害で被災した熊本県人吉市、八代市での災害支援ボランティアに取り組み、災害が起きた3日後から依頼があった現地を訪れた。４ヶ月間毎日参加して、2021年6月25日には100回目を迎えた。活動に取り組んでみて、支え合う大切さなど教室では学べないことがたくさんあると感じた。常に先輩たちから引き継いだ精神を大切にしながら取り組んでいる。

宮崎県　宮崎県立宮崎農業高等学校　ボランティア部

日本の発酵食品の良さを国内外に広める活動をしている。専門家の協力を得ながら、日本や外国の方々とオンラインで交流し、発酵食品の良さを伝えることができた。また同時に外国の文化を知ることもできて良い経験になった。若い世代にも発酵食品の良さを広めるために、発酵食品を使ったスイーツを考え、地域の方々を対象にオンラインでのイベントも開催した。

沖縄県　沖縄県立中部農林高等学校定時制　山城（やましろ） 悠椰（ゆうや） さん

主に公民館の清掃活動やビーチクリーン活動、沖縄こどもの国でのイベントボランティア、美ら海水族館でのイベントボランティアに取り組んでいるが、コロナの影響で思ったような活動ができていない。今後は他の高校と連携して大きなつながりを作ったり、清掃やイベントの補助だけでなく、SDGsを意識した活動につなげることなどを目標に取り組んでいこうと思っている。

審査員からのメッセージ

コロナ禍で、不安や困窮がますます混迷を深める中、その一方で、さまざまな社会課題を自分事として考える契機にもなっています。今回のSOCの応募事例では、中高生の皆さんが、社会の課題に対して常にアンテナを立て、それをキャッチし、思いをカタチにしておられ、とても心強く思いました。

特別支援学校の取り組みも勇気づけられるものです。支援する側と支援される側を固定的に見る時代は終わりました。誰にとっても「居場所と出番」があることが社会の豊かさの条件です。今後も、多様な人たちの参加に期待したいと思います。

内容的には、コロナ禍ならではの課題や、故郷の特徴を生かした取り組み、また、世代を超えて取り組む事例など、柔軟な発想で周りを巻き込む様には、中高生ならではの清々しさと頼もしさを感じます。

こうした取り組みへの先生方はじめ周囲の大人の伴走も大事な要素になっていると思います。25回の節目に示された取り組みは、次の高みを目指すための一歩でもあると思います。中高生の皆さんや、それをサポートする方々、そして、事務局の皆さん、関わってこられたすべての皆さんの思いとご努力に、心より敬意と感謝を申し上げます。

公益社団法人 日本フィランソロピー協会　理事長

髙橋 陽子

コロナ禍で活動が制限されている状況の中、多くの中高生が参加してくれたことに感動を覚えるとともに、主催者の皆様のご労苦に心から御礼申し上げます。

今年度の皆さんの活動を拝見した中で、感じたことが2点ありました。

一つ目は、コロナ禍の中で、中高生が視野を広げ、学校生活では気付かないことに目を向けながら真摯に活動に取り組んでいる姿が目に浮かぶ活動内容であったということです。大人の私たちも見習わなければならないと痛感しました。

二つ目は、活動の広さです。貧困問題、動物愛護、SDGs、コロナ禍ならではのオンライン活動など、生徒の皆さんがアイディアを考え、実行し、その活動を広げるためにさらに調査し、探求していく姿を見ることができました。これは、まさしくこれからの教育に必要な要素であると感じています。

この活動が、さらに輪を広げて繋がっていくことを期待しています。

公益社団法人 ジュニア・アチーブメント日本　代表理事

佐川 秀雄

コロナ禍を乗り越え、無事に25回目を終えました。この優れたプログラムは全国の中高生のボランティア活動を後押しするだけでなく、アワードの草創期に関わった教員らの発案により集ったボランティア・リーダーが交流、刺激し合う場を組み入れている点も特筆に値します。四半世紀に及ぶ活動を支え続けたプルデンシャル生命をはじめグループ内の社員の社会貢献の大きさは、計り知れません。

ボランティア活動への評価・表彰への逆風をはねのけ、阪神・淡路大震災などを契機に成熟し始めた大人の活動の歩みと軌を一にし、環境・福祉分野から、災害、学習、文化、地域貢献と活動の幅を広げ、生徒自らが組織を立ち上げ社会活動を切り拓くまでになりました。

今後も、地域や世界の課題に向き合い、みんなの笑顔を引き出し、そして、活動そのものを楽しめる生徒たちの活躍に期待します。

生徒と伴走を続ける保護者、教員など指導者のご努力に深く感謝いたします。

元日本教育新聞社取締役編集局長
公益財団法人理想教育財団理事
矢吹 正徳

あなた自身の活動は、あなたがいなければ成り立たない「有難い」こと

第21回文部科学大臣賞・米国ボランティア親善大使

ダルモ　マイケルさん

みなさんこんにちは!

ご紹介にあずかりました、PRUDENTIAL SPIRIT OF COMMUNITY 第21回ボランティア・スピリット・アワード(以下:SOC)にて文部科学大臣賞と米国ボランティア親善大使をいただきました、ダルモマイケルです。

第25回SOC受賞者の皆様、この度は受賞おめでとうございます。

今この場において皆様とお会いできることをとても嬉しく思っております。

今回のスピーチでは、受賞者への日々の活動の激励と今後の活動の成功の願いを込めて、私のメッセージとSOCでの経験談をお伝えできればと思います。

リラックスして聞いてくれると嬉しいです。

まず初めに、皆様にお伝えしたいことがあります。

「お疲れ様でした。いつもボランティアありがとう!」

この一年、コロナ禍からの復興の時期に入り、いつも通りイベントに参加することができる社会になりつつありますが、それでもなお、不安を抱えボランティアをやりたくてもやれない受賞者の方もいたのではないのでしょうか?

それでもなお、「何かを変えたい。誰かを救いたい。」その気持ちを持ってボランティア活動を続けてくださった皆様には、尊敬の意を込め、心からの感謝を申し上げます。本当にいつもボランティアありがとう。

でも、正直な話自分の信念で行ってきたとはいえ、皆様のボランティアの道を歩む上では何事も綺麗な話ではなかったと思います。他人から馬鹿にされる時もあったでしょう。自分の無力さに打ちひしがれる時もあったでしょう。何もかも投げ出したいほど追い詰められた時もあったと思います。それでも皆さんは傷つきながらも前へ進み、今こうして立っている。そして今後もその姿勢でボランティアに臨んでいくのであろうと思います。このSOCという場所は、そんな皆さんにとって傷を癒し、同志と語り合って意識を高める「止まり木」のような場所であると私は経験をもって確信しております。「止まり木」にいる皆さんに対して一つ先の先輩として、今後進んでいく上で逆境に対して自分の意志を貫くボランティアのあり方を語らせてください。

私は元々フィリピンで生まれ、3歳から親が出稼ぎで日本にいる間は一緒に過ごすことができないことから、人生が始まりました。そのため日本に来た時の小学校2年生の私は、家と学校に自分の居場所を見つけることができませんでした。しかし、地元岐阜県美濃加茂市のイベントボランティアに初めて行った時、些細な作業をした後に「ありがとう」と言ってもらえたことによって地域に自分の居場所を見出すことができました。そして、それからは行ける時には市のボランティアへ行く生活が始まりました。ボランティアのしすぎで親からボランティア制限されたのも今ではいい思い出です。そして市のボランティアを行うたびに地元に対する愛着を持ち、高校には当時の先生と共に干し柿のPR活動をして地元を盛り上げようと活動しました。

しかし、それは苦難の始まりでもありました。「成績稼ぎ」だと後ろ指をさすクラスメイト。お金を生み出さない活動に難色を示す父。それから逃げるようにできる限り学校の研究室でこもって活動を展開する日々が始まりました。信じられるのは先生だけ。そのような状態でも今でも活動できるのはボランティアで関わっている人たちから「ありがとう」と言われてきたからです。些細な行為でも言われるたびに「頑張って良かった」と自分が救われる気持ちになっておりました。そして「ありがとう」と言ってくれる人たちから話をいただき、今では多文化共生社会に貢献する生きがいのあるライフワークを確立できるようになりました。

そしてこのSOC。SOCは辛い時代の私にとって「止まり木」となってくれました。志を持ち、厳しい状況でも進んでいく同期の人たちは私にとって井戸の中から大海を知れたように「救い」でありました。

・数学に人生をかけて、他の人にも数学の楽しさを知ってほしいと機会を創作する人。
・世界を愛で包みたくて、国内を始めベトナムやカンボジアで看護活動をし、大学に入ってからも、団体を立ち上げ、日々自分の理想のために奔走する人。
・在日外国人の子どもたちに日本語を教え、そして海外のことを学び、SOCに戻って親善大使になった人。

みんな活動が面白く個性的なものばかりで、自分の活動を語っている時の目は輝いていました。育った場所も年齢もバラバラだけども、誰もが私にとって見習うべき先生でした。昼には活動について語り合い、夕食には日常の些細なことで笑い合う。そして、ボランティアを素直に『ありがとう』と言って褒めてもらえる環境があり、当時の全国表彰式の3日間は私の青春を凝縮した場所でした。そこで出会った仲間とは今でも繋がり、プライベートでも関係を持たせてもらってそこには共に“有難う”と言い合える仲間と作り上げた私にとっての「止まり木」ができていたのです。

その後はみんなからの熱い思いを受け、私は米国ボランティア親善大使としてアメリカに旅立つことになりました。アメリカについて早々、言葉の壁が辛く、泣いていた夜もありましたが、「みんなの思いを無駄にはできない!」と切り替えをつけて奮闘し、交流を取り続けました。その結果、アメリカの表彰者や他国の親善大使の多くは自身の命が危ない状態でも、竹馬の友を失った過去があっても、その事実に面と向き合って前を向いて活動をしている人ばかりだということがわかりました。私は交流して話を聞くたびに感動で涙を流し、ボランティアが「自分の信念を貫き、その信念を実現する方法」であるのだと答えをえるとともに、私がここに来るために背中を押してくれた仲間や先生に「ありがとう」の気持ちが止まりませんでした。

そのSOCを通じて、全国とアメリカで得た思い・学びと「ありがとう」という感謝の気持ちを持って、私は今を生きております。

私を支えてくれた「ありがとう」という言葉はあなた方もボランティアをしていく上で何度も耳にする言葉だと思います。「ありがとう」というのは「有ることが難しい」と書いて「有難う」と書きます。滅多にないことを指し、その大切さを自覚する言葉だと私は思います。だから自分のボランティアに自信を持ってください。なぜならばあなた自身の活動はあなたがいなければ成り立たない「有難い」ことなのだから。その言葉を信じて進んでください。そしていつか、あなたが他の人へ「有難う」と言える日が来ますように。

そして、ボランティアは「自己犠牲」ではありません。少なくとも私の半生にとってボランティアは「己を救う術」であったと思います。だから苦しい時ほど、一旦自分の気持ちに正直になってください。「自分のやりたいことは何か」を再度問い直してください。そして、頼れる仲間・大人に話してみてください。この「止まり木」のSOCにはその全てがあります。きっと大丈夫。絶対に。

以上で私の全ての思いのバトンをみんなに託します。
次はみなさんが誰かにこのバトンを渡してください。
みなさんのボランティアが皆さんを救うものであることを願って。
そしてSOCがみなさんにとっての「止まり木」としてあることも願い、締めくくりとさせていただきます。

いつもボランティアありがとう!

ダルモ マイケルさんの受賞対象となったボランティア活動

中学生時より、市のイベントにボランティアとして積極的に参加。美濃加茂市の特産品である「堂上蜂屋柿(干し柿)」のPRイベントの企画運営や番組制作などを行った。また、この活動を通じて知り合った全国の高校生とコラボ企画を展開。広島県立呉専門高等学校の石段の上プロジェクトとの「柿を使った石窯ピザの企画」や、佐野市と美濃加茂市で結ばれた特産品相互協定を活かし、大阪府立佐野高等学校とのコラボ企画も実施した。その他、渋柿で染めた和紙と竹でつくる星形イルミネーションを飾るイベントにも取り組んだ。

2021 National Honorees 全米特別賞受賞者の活動

Ruby Kate Chitsey（13歳、アーカンソー州）

Ruby Kate Chitsey, 13, of Harrison, Arkansas, a seventh-grader at Arkansas Virtual Academy, has raised more than $300,000 to grant wishes for over 8,000 nursing home residents across the country who cannot afford day-to-day expenses such as pet food, haircuts or clothes that fit properly.

ペットフード、ヘアカット、服などの日用品を購入する余裕のない全国の8,000人以上の老人ホーム居住者の希望を叶えるために、30万ドル以上の寄付を集めました。

Gitanjali Rao（15歳、コロラド州）

Gitanjali Rao, 15, of Lone Tree, Colorado, a sophomore at STEM School Highlands Ranch, has reached more than 30,000 students around the world, encouraging younger generations to think creatively about confronting the world's big challenges by leading online workshops where she shares the unique problem-solving methodology she created.

若い世代が世界の大きな課題に取り組む際に創造的に考えることを支援すべく、独自に創った問題解決手法を共有するオンラインワークショップを開催し、世界の30,000人以上の学生に届けました。

Samantha Vance（12歳、インディアナ州）

Samantha Vance, 12, of Fort Wayne, Indiana, a sixth-grader at Blackhawk Middle School, launched an initiative to provide "buddy benches" for shy, lonely or bullied kids at more than 150 schools across the country.

全国の150以上の学校で、恥ずかしがり屋、孤独、またはいじめられている子どもたちに「仲間のベンチ」を提供する取組を始めました。

Ellie Zimmerman（18歳、ニューヨーク州）

Ellie Zimmerman, 18, of Purchase, New York, a senior at Rye Country Day School, is the founder and CEO of an organization that has recruited thousands of high school students across the country to provide technology assistance to more than 180 nonprofit organizations, as well as to teachers, parents and students struggling with remote learning.

全国から数千人の高校生を募集して、180以上の非営利団体、およびオンライン教育に苦労している教師、保護者、学生に技術支援を提供する組織を創設し、CEOを務めています。

Katie Chai（18歳、ノースカロライナ州）

Katie Chai, 18, of Charlotte, North Carolina, a senior at Charlotte Latin School, helped start a grassroots effort to address the shortage of personal protective equipment (PPE) in her city by using 3D printers and laser cutters to make more than 100,000 face shields, which were ultimately distributed to health care workers across North Carolina and in 12 other states.

3Dプリンターとレーザーカッターを使用して100,000個を超えるフェイスシールドを作成し、地域の個人用保護具（PPE）の不足に対処する草の根の取り組みを支援しました。制作したフェイスシールドは、最終的にノースカロライナ州と他の12州の医療従事者に配布されました。

Michael Chen（13歳、ノースカロライナ州）

Michael Chen, 13, of Raleigh, North Carolina, a seventh-grader at Triangle Math and Science Academy, has made more than 580 mask "buckles" with his 3D printer to lessen the discomfort that wearing face masks for extended periods can cause behind the ears.

マスクを長期間着用すると生じる耳の後ろの不快感を軽減するために、3Dプリンターで580以上のマスク「バックル」を作成しました。

Suraj Kulkarni（18歳、オレゴン州）

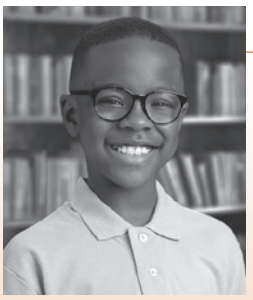
Suraj Kulkarni, 18, of Corvallis, Oregon, a senior at Corvallis High School, created a website where young people of diverse backgrounds can share their experiences, perspectives and culture with one another, along with online conferences that have involved young people from more than 13 countries.

13カ国以上の若者が参加するオンライン会議を開催したほか、多様なバックグラウンドを持つ若者がお互いの経験、視点、文化を共有できるウェブサイトを作成しました。

Cash Daniels（11歳、テネシー州）

Cash Daniels, 11, of Chattanooga, Tennessee, a fifth-grader at Homelife Academy, has organized cleanup outings that have removed more than 11,000 pounds of trash from the Tennessee River, recycled over 1,000 pounds of aluminum cans to raise money for river conservation, and installed fishing-line recycling receptacles along the river.

テネシー川から11,000ポンド以上のゴミを取り除く清掃活動をリードし、収集した1,000ポンド以上のアルミ缶をリサイクルして川の保全をする活動資金を集め、川沿いに釣り糸のリサイクル箱を設置しました。



Orion Jean（10歳、テキサス州）

Orion Jean, 10, of Fort Worth, Texas, a fifth-grader at Chisholm Ridge Elementary, collected more than 600 toys for kids at a children's hospital, and provided more than 40,000 meals for people in need, after winning a national speech contest in which he encouraged people to "Race to Kindness."

全国のスピーチコンテストで受賞し「Race to Kindness（やさしさ競争）」を奨励した後に、小児病院の子ども向けに600個を超えるおもちゃを集め、困っている人々に40,000食を超える食事を提供しました。

Thomas Kim（17歳、バージニア州）

Thomas Kim, 17, of McLean, Virginia, a junior at Landon School, has piloted more than 20 flights to deliver over 70,000 personal protective equipment (PPE) items and ventilator supplies to rural hospitals in four states since the COVID-19 pandemic began.

COVID-19のパンデミックが始まって以降、70,000個を超える個人用保護具（PPE）と人工呼吸器具を4州の遠隔地病院に届けるために、20回以上のフライトを操縦しました。

第25回SOC応募状況

第25回SOCにご応募いただいた全員のボランティア活動について集計いたしました。

活動人数	個人応募	グループ応募	応募総合計
	227人	9,405人	9,632人

応募件数	個人応募	グループ応募	応募総合計
	227件	215件	442件

1 中学生・高校生の別（件）

中学生	134
高校生	308

2 ボランティアの形態（件）

個人	139
学校内のグループ	245
他校とのグループ	3
外部団体	17
その他	38
無回答	0

3 都道府県別活動人数

北海道・東北ブロック		
個人		4件
グループ		14件
合計		880人
北海道	89人	3件
青森県	306人	2件
秋田県	14人	2件
岩手県	426人	2件
宮城県	13人	3件
山形県	19人	2件
福島県	13人	4件

北関東・信越ブロック		
個人		3件
グループ		26件
合計		862人
群馬県	67人	3件
栃木県	134人	5件
新潟県	0人	0件
長野県	72人	5件
茨城県	589人	16件

首都圏ブロック		
個人		147件
グループ		39件
合計		1,398人
埼玉県	563人	7件
東京都	192人	22件
千葉県	119人	5件
神奈川県	512人	150件
山梨県	12人	2件

東海・北陸ブロック		
個人		18件
グループ		19件
合計		1,801人
富山県	0人	0件
石川県	1人	1件
福井県	32人	2件
岐阜県	1,437人	11件
静岡県	26人	11件
愛知県	238人	9件
三重県	67人	3件

関西ブロック		
個人		30件
グループ		63件
合計		1,294人
滋賀県	29人	3件
奈良県	97人	41件
和歌山県	45人	1件
大阪府	181人	27件
京都府	459人	8件
兵庫県	483人	13件

中国・四国ブロック		
個人		3件
グループ		28件
合計		1,725人
岡山県	198人	9件
島根県	114人	3件
鳥取県	36人	2件
広島県	83人	2件
山口県	22人	1件
香川県	78人	4件
愛媛県	745人	5件
徳島県	44人	2件
高知県	405人	3件

九州ブロック		
個人		22件
グループ		26件
合計		1,672人
福岡県	58人	4件
佐賀県	2人	1件
長崎県	756人	9件
大分県	0人	0件
熊本県	157人	18件
宮崎県	619人	6件
鹿児島県	73人	3件
沖縄県	7人	7件

今年の応募内容の特徴

昨年から続くコロナ禍で、人との交流が制限されるのみならず、様々な社会課題が一層の深刻さを増す中、深い問題意識を抱き、柔軟に根気強く、創意工夫を凝らして取り組んだ応募が多く見られました。特に、貧困問題や孤立の解消、動物愛護といった社会課題の解決に取り組む例が見られました。また、SDGsの観点から持続可能な社会を目指した取り組みも多く見られました。

第25回SOC応募校一覧 ※順不同

PRUDENTIAL SPIRIT OF COMMUNITY

北海道・東北ブロック

都道府県名	学校名	応募数 グループ	応募数 個人
北海道	札幌市立栄南中学校	1	
	札幌市立札幌開成中等教育学校	1	
	星槎国際高等学校 芦別学習センター	1	
青森県	青森県五所川原市立五所川原第三中学校	1	
	青森県立五所川原農林高等学校	1	
秋田県	秋田県立大曲農業高等学校	2	
岩手県	協和学院水沢第一高等学校	1	
宮城県	宮城県農業高等学校	1	
山形県	山形県立置賜農業高等学校	1	
	山形県立東桜学館高等学校		1
福島県	福島県立葵高等学校		3
	福島県立郡山萌世高等学校	1	
中学校			1
高等学校			14
その他／学校名なし			3

北関東・信越ブロック

都道府県名	学校名	応募数 グループ	応募数 個人
群馬県	群馬県立館林高等学校	1	
	群馬県立高崎東高等学校	1	
	白根開善学校中等部・高等部	1	
栃木県	宇都宮市立晃陽中学校	1	
	栃木県立学悠館高等学校	1	
	栃木県立黒磯南高等学校		1
	栃木県立小山西高等学校	1	
	栃木県立真岡女子高等学校	1	
長野県	上田西高等学校		1
	長野県更級農業高等学校	1	
	長野県飯田OIDE長姫高等学校	1	
	長野市立北部中学校	1	
	東海大学付属諏訪高等学校	1	
茨城県	茨城県立日立第二高等学校	1	
	江戸川学園取手高等学校	1	
	水城高等学校	1	
	八千代町立八千代第一中学校	1	
	茗渓学園中学校高等学校	12	
中学校			3
高等学校			26
その他／学校名なし			0

首都圏ブロック

都道府県名	学校名	応募数 グループ	応募数 個人
埼玉県	さいたま市立植竹中学校	1	
	埼玉県立桶川西高等学校	1	
	埼玉県立川口工業高等学校	1	
	三郷市立前川中学校	1	
	三郷市立彦糸中学校	1	
	上尾市立東中学校	1	
	草加市立栄中学校		1
東京都	安田学園高等学校		1
	安田学園中学校		1
	学習院女子高等科		1
	港区立青山中学校	1	
	自由学園高等科・中等科	1	
	淑徳中学高等学校	1	
	世田谷区立緑丘中学校		3
	西東京市立田無第四中学校	1	
	調布市立第五中学校	1	
	東京学芸大学附属国際中等教育学校	2	1
	東京都市大学等々力高等学校	1	
	東京都市大学等々力中学校高等学校	1	
	東京都立葛飾ろう学校	1	
	東京都立葛飾総合高等学校	1	1
	藤村女子中学・高等学校	1	
	獨協中学・高等学校	1	
千葉県	浦安市立高洲中学校		1
	千葉県立我孫子東高等学校	1	
	千葉県立四街道高等学校		1
	大網白里市立大網中学校	1	
	麗澤中学・高等学校	1	
神奈川県	カリタス女子中学高等学校	4	
	サレジオ学院中学校・高等学校	5	126
	横浜市立保土ケ谷中学校	1	
	桐蔭学園高等学校	1	
	厚木市立厚木中学校	1	
	自修館中等教育学校		4
	神奈川県立横浜氷取沢高等学校	1	
	神奈川県立川崎工科高等学校	1	

第25回SOC応募校一覧 ※順不同

都道府県名	学校名	応募数 グループ	応募数 個人
神奈川県	藤沢市立片瀬中学校	1	
	日本女子大学附属高等学校	1	
山梨県	山梨学院高等学校		1
	駿台甲府高等学校	1	
中学校			17
高等学校			164
その他／学校名なし			5

東海・北陸ブロック

都道府県名	学校名	応募数 グループ	応募数 個人
石川県	金沢大学附属高等学校		1
福井県	福井県立大野高等学校	1	
	福井県立福井商業高等学校	1	
岐阜県	岐南町立岐南中学校	1	
	岐阜県立大垣養老高等学校	1	
	岐阜市立精華中学校		4
	川辺町立川辺中学校	1	1
	大垣市立東中学校	1	
静岡県	学校法人日本体育大学 浜松日体高等学校		6
	学校法人日本体育大学 浜松日体中学校		4
	浜松市立三方原中学校	1	
愛知県	愛知県立岡崎東高等学校	1	
	岡崎市立城北中学校		1
	菊華高等学校	1	
	桜花学園高等学校	1	
	中部大学春日丘高等学校	1	
愛知県	名古屋トライ式高等学院 千種キャンパス	1	
	名古屋市立守山西中学校	1	
	名古屋市立新郊中学校		1
	名古屋大学教育学部 附属高等学校	1	
三重県	セントヨゼフ女子学園高等学校	1	
	英心高等学校	1	
	松阪市立飯高中学校	1	
中学校			15
高等学校			20
その他／学校名なし			2

関西ブロック

都道府県名	学校名	応募数 グループ	応募数 個人
滋賀県	滋賀県立国際情報高等学校	1	
	滋賀県立八日市南高等学校	1	
	大津市立葛川中学校	1	
奈良県	育英西中学校	13	19
	広陵町立真美ヶ丘中学校	1	
	奈良県立国際高等学校	1	
	奈良県立奈良情報商業高等学校	1	
	奈良市立春日中学校	1	
和歌山県	和歌山県立熊野高等学校	1	
大阪府	関西学院千里国際高等部		1
	堺市立金岡南中学校	4	
	大阪教育大学附属池田中学校	13	
	大阪市立大阪ビジネスフロンティア 高等学校		3
大阪府	大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程	3	
	大阪府立農芸高等学校	1	
	大阪府立枚岡樟風高校	1	
	桃山学院高等学校	1	
京都府	亀岡市立育親中学校	1	
	亀岡市立亀岡中学校	1	
	亀岡市立東輝中学校	1	
	京都市立花背小中学校	1	
	京都府立綾部高等学校	1	
	京都府立京都八幡高等学校 南キャンパス	1	
	南丹市立園部中学校	1	
	立命館宇治高校		1
兵庫県	Canadian Academy		1
	芦屋学園高等学校	1	
	甲南高等学校	1	1
	神戸女学院中学部・高等学部	1	
	西宮市立山口中学校	1	
	相生学院高等学校	1	
	兵庫県立芦屋高等学校	1	
	兵庫県立社高等学校	1	
	兵庫県立東播工業高等学校	1	
	兵庫県立豊岡総合高等学校	1	
	豊岡市立豊岡北中学校	1	
	養父市立養父中学校	1	
中学校			64
高等学校			24
その他／学校名なし			5

中国・四国ブロック

都道府県名	学校名	応募数 グループ	応募数 個人
岡山県	岡山県立倉敷古城池高等学校	1	
	岡山県立倉敷天城高等学校	1	
	岡山県立矢掛高等学校		1
	金光学園中学・高等学校		1
	山陽学園高等学校	1	
	新見市立哲西中学校	1	
	朝日塾中等教育学校	2	
島根県	益田市立横田中学校	1	
	出雲西高等学校	1	
	島根県立三刀屋高等学校	1	
鳥取県	鳥取県立琴の浦高等特別支援学校	1	
	鳥取県立八頭高等学校	1	
広島県	三原市立第一中学校	1	
	崇徳高等学校	1	
山口県	山口県立柳井商工高等学校	1	
香川県	まんのう町立満濃中学校	1	
	香川県立観音寺第一高等学校		1
	香川県立琴平高等学校	1	
	香川県立三本松高等学校	1	
愛媛県	宇和島市立城東中学校	1	
	宇和島市立城南中学校	1	
	宇和島市立城北中学校	1	
	松山市立勝山中学校	1	
	東温市立重信中学校	1	
徳島県	徳島県立阿南光高等学校	1	
	徳島市立高等学校	1	
高知県	高知県立幡多農業高等学校	1	
	高知市立横浜中学校	1	
	高知大学教育学部附属特別支援学校	1	
中学校			9
高等学校			21
その他／学校名なし			1

九州ブロック

都道府県名	学校名	応募数 グループ	応募数 個人
福岡県	新宮町立新宮中学校相島分校	1	
	八女市立矢部清流学園	1	
	福岡市立志賀中学校	1	
佐賀県	基山町立基山中学校	1	
長崎県	長崎県立佐世保西高等学校		1
	長崎県立川棚特別支援学校	1	
	長崎県立対馬高等学校	1	
	長崎県立諫早農業高等学校	2	
	長崎市立西泊中学校	1	
	長崎日本大学中学校		1
	諫早市立有喜中学校	1	
熊本県	マリスト学園高等学校		1
	熊本学園大学付属高等学校		1
	熊本県立菊池農業高等学校	1	
	熊本県立南稜高等学校	1	10
	熊本県立八代高等学校・八代中学校	1	
	熊本市立北部中学校	1	
熊本県	西原村立西原中学校	1	
宮崎県	宮崎県立宮崎農業高等学校	1	
	国富町立八代中学校	1	
	小林市立紙屋中学校	1	
	生目台中学校	1	
	都城市立妻ケ丘中学校	1	
	都城市立姫城中学校	1	
鹿児島県	鹿屋市立第一鹿屋中学校	1	
	鹿児島県立大島高等学校	1	
	大崎町立大崎中学校	1	
沖縄県	沖縄県立中部農林高等学校定時制		7
中学校			15
高等学校			30
その他／学校名なし			3

〈締切日〉
2022年
8/31(水)

あなたのボランティア活動を聞かせて下さい!

第26回
(2022年)

「Prudential Spirit of Community ボランティア・スピリット・アワード(SOC)」は、2022年4月から「Prudential Emerging Visionaries ボランティア・スピリット・アワード　～未来を描くチカラ～」に名称変更しました。

Prudential
EMERGING VISIONARIES

応募者全員に、記念品をプレゼント！

応募期間

2022年6月1日(水) ～ 2022年8月31日(水)

応募資格

・ボランティア活動に取り組んでいる中学生・高校生(2022年8月31日時点で在学中の方) ※特別支援学校や、中高一貫校等は、それぞれ対応する部門にご応募ください。ご不明な点やご質問は、事務局までお問合せください。
・過去の応募・受賞歴に関係なく、何度でも応募可能です。
・個人の活動、グループでの活動、どちらも対象となります。
・2021年9月以降に取り組んだ(取り組んでいる)活動が対象です。

応募方法

公式ホームページよりご応募ください。
ボランティア活動について、具体的な体験や感想をご記入ください。
※具体的な入力項目と応募方法は、公式ホームページの応募概要ページに記載します。

活動期間　活動内容　活動のきっかけ　苦労したこと・工夫したこと　学んだこと

◀ホームページはこちら

審査項目

●自主性　●創造性　●気づき・チャレンジ　●社会貢献度・影響度　●学び・成長
●困難の克服　などを総合的に審査します。

各賞について

文部科学大臣賞	中学生部門・高校生部門　各1名 活動支援金10万円、表彰状、クリスタルトロフィー
米国ボランティア親善大使	代表2名を選出 2023年5月に全米表彰式(予定)へ派遣、表彰状
全国賞	ブロック賞受賞者より8名(上限) ボランティア活動支援金10万円、表彰状、クリスタルトロフィー
ブロック賞	全国より30名(上限) ボランティア活動支援金5万円、表彰状
コミュニティ賞	全国より150名(上限) ボランティア活動支援金2万円、表彰状

お問合せ先

ボランティア・スピリット・アワード 事務局
〒112-8790 東京都文京区小石川4-14-12 共同印刷(株)内
ホームページ:**www.vspirit.jp**　TEL:03-5501-5364　Eメール:info@vspirit-info.jp

ボランティア・スピリット・アワード　検索

携帯サイトは
こちらから→

主催：プルデンシャル生命保険株式会社
ジブラルタ生命保険株式会社
プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社
日本教育新聞社
後援：文部科学省
日本赤十字社

PRUDENTIAL SPIRIT OF COMMUNITY
ボランティア・スピリット・アワード 事務局
TEL:03-5501-5364 **www.vspirit.jp**

2022.4